

司の筆也方丈は勝元の館書院を以ていとなみ庭前の築山地邊の風色は勝元の好みなり此地北は衣笠の山を負ひ南を遙に闔て温氣めぐる事早し池の面には水鳥むれあつまり玄冬の眺をなす是を龍安寺の鴛鴦とて名に高し

◎真如寺は衣笠の巽松原村の西にあり開基は夢窓國師本尊は釋迦佛佛光國師像壇下に安す達磨佛國夢窓の三影東の脇壇に安す初は無著尼といふ人こゝに庵を結て正脈庵といふ康永年中に高武藏守師直修造すといへり

◎正法山妙心寺は龍安寺の南木辻の西にあり開山は關山國師信州の人なりとせ京に來り大灯國師によりて衣鉢閣に上り一夕關山雲門の關の字を會得す大灯また雲門大師來れると夢見て關山と號す後醍醐帝の問に答奉りしかも尊旨にかなふ其後花園法皇禪苑をたて關山を住職とな

し給ふ則法皇も方丈の後に一院をいとなみ住せ給ふこれを玉鳳院といふ佛殿の本尊釋迦佛左は迦葉右は阿難達磨臨濟脇壇の左右にあり神牌は花園院、後花園院、後土御門院、後柏原院、後奈良院なり法堂は北にあり經藏は東にあり玉鳳院は正面に唐門あり額は法皇の御震筆なり

◎雙岡は妙心寺の西にあり一二三岡相並たり

◎吉田兼好法師の舊跡二の岡の西の麓にありしを近世岡の東長泉寺にうつすなり

◎法金剛院ならびの丘にありむかし清原真人夏野の別莊也其子右大臣瀧雄公もならびの丘のうへに山莊をいとなみて後寺となして雙丘寺となづく已に荒廢せしが大治年中に待賢門院再興ありて號を法金剛院とわらたむ宗旨は四宗兼學中興は圓覺上人なり本尊は阿彌陀如來丈六の像にして春日の作なりといふ

◎西光庵は双の池の上にあり淨土宗にして向阿上人の開基なり

◎五智山には五智の如來を安置す山上に石彫の五智尊不動觀音地藏の石佛を安すこれ皆單稱法師のささみ給ふなり

◎三寶寺は西の山上にありて日蓮宗なり本尊は南向にして釋迦堂は山上にあり開基は日護上人と云ふ

◎泉殿といふは妙光寺と般若寺との間にありむかし鳥羽院の御子覺性法親此所に御室をいとなみ住せ給ふなり

◎平岡の入幡宮は弘法大師の勸請なりかたはらに大石あり里人山神とそ恐れける

◎梅畑善妙寺と華嚴宗にして梅尾に屬す善妙神の社立せ給ふ蓮華谷程りかし

◎愛宕神社は府社にして愛宕山の頂にあり朝日嶺白雲寺と號す一の鳥居

より坂路五十町ありてはぞめに試の時あり清瀧川渡猿橋火燈籠現は十七町目にあり瀧が原と北の麓にして南星峯とは乾のかたの嶺をいふ鐵の華表の類は表を朝日山裏を白雲寺と書す共に竹裏良恕法親王の筆也本殿は阿太子山權現にして祭所は伊弉册尊火産靈尊也本地は將軍地藏を垂跡となし帝都の守護神として火災を永く退給ふ也むかしは鷹が峯のはとりにありしを光仁天皇の御宇天應元年に慶俊法師此山をひらきて勸請し給ふ例祭は四月中の亥の日にして神輿二基あり嵯峨清凉寺の鎮守を御旅所として野々宮に振て神供を備ふこれを嵯峨まつりといふ六月廿四日は千日参りとて宵より群集し月毎の縁日にも老若男女のわからもなく万俣の嶮しきをいとはず坂路の茶店に休らへば白雲目の前を擴ふあるひは土器なげに興て足の重さを忘るこの山は山城國一二に列なる高山にして炎暑の折も峯寒し道は嶮難たりといへとも常に

詣人おほく賑しきも只権現の威徳ぞかし

(170)

●鎌倉山月輪寺は愛宕の山腹にあり鐵の鳥井より左へ下りて七十三町なり當寺の本尊は十一面觀世音を安置す祖師堂には空也上人親鸞聖人月輪殿下の像あり開基は慶俊法師中興は九條關白太政大臣兼實公也此地に開居し給ふ故月輪禪定と稱す空也上人此地に幽居し給ふ時當山寒禪龍より龍女婦人と化して顯れ上人に妙經を授り忽成佛す其報恩として後山の巖を穿しかと清泉涌出るこれを龍女氷といふ時雨櫻は堂の前にあり親鸞聖人北國左遷の時兼實公名殘をおしみ給ひければ自作の像を遺し別れ給ふとき此櫻より時雨す今も彌生の末にはしぐれたへずしけるとなん

●化野は小倉山の北の麓なり念佛寺の本尊は阿彌陀佛にして湛慶の作なり福田寺は南朝の帝後龜山院の陵あり靜息院の本尊は俱王神にして

小野 篁の作焔魔王の像は弘法大師の作地藏菩薩は滿米上人作なりと

●妓王寺と淨土宗にして往生院となづくいにしへは西の山上にあり後世今の地にうつす本尊は阿彌陀佛にして脇士と觀音勢至なり清盛入道淨海の塔祇王祇女佛刀自の塔も庵室の南にあり昔平相國は妓王を寵けるに又もや佛の前を擧しかば祇王はもえ出るもかるも同しのべの草何か秋にあはてはつべきといふ一首を遺してこゝに隠る佛も我身のうへの秋をもまたず此庵に來つて四人とも道心堅固にありけりまことに目出度義女なりけり新田義貞の碑もこの寺にあり義貞戰死せしかば夫人勾當内侍これを寺中に葬り小祠を建て、祭れり近年碑を建てたり

(171) ●三寶寺は祇王寺の南に隣るこゝも往生院となづく本尊は阿彌陀佛又瀧口入道横笛の像を安置す開基は良鎮上人也歌石といふは門のまへにあ

り小松内大臣の侍士瀧口時頼といふものあり又建禮門院の曹司横笛は容顔美麗にして舊は攝州神崎の遊君たりしが瀧口に忍び逢ひつゝに此翼の契りを結ぶ瀧口世を觀じて出家し此寺に隠れしかば横笛是まで尋來りしに瀧口は逢ざりけり詮かたなく此石に一首を殘し大井川千鳥の淵に身を沈めたりといふ

④小倉山二尊院は愛宕の南小倉山にあり宗旨は天台、眞言、律、淨土四宗の兼學なり當院の本尊は釋迦阿彌陀の二尊也立像にして發遣來迎の相をあらはせり念佛堂には法然上人の影を安置す中門の額は後柏原院の宸筆にして小倉山とあり本尊の額二尊教院は後奈良院の宸翰なりいにしへの額は小野道風の筆にして二尊教院と書して四足門にかけたり然るに門前の池より夜々懸蛇登りて額の文字を嘗るこれを防がん爲に額のかたはらに不動の像を書せけれどもいまだ止す正信上人が蛇の

執を救はんためにみづから圓頓戒の血脉書て池にしづめらる然るにかの池より千重の白蓮花一もと生ず是ぞ誠に龍女成佛の證なりとてかの花をとりて什寶とす今にあり池の汀の辨才天の社は龍女を勸請しけるなり當院は嵯峨天皇芹河野に行幸の時ならびなき勝地なりとて此所をひらき給ひ華臺寺ならひに二尊教院と號せり夫より連綿として無雙の靈場となる醍醐帝の皇子兼明親王此はとりに山莊を營雄藏殿と稱す其後星霜かさちりて中興法然上人閑居し給ひ元久元年十一月七日一宗機範の式七ヶ條の起請文を制せられ自筆を染て判形をすへらる當院第二世信空上人をはじめ西山上人等百八十九人起請に同せらるおのく自筆に名を書れけり又神變の舍利を安置す足引の御影の傳に日月輪禪定殿下法然上人に御歸依の志深く尊敬のあまり上人の眞形を寫さんと仰ける上人かたく辭して退出せらる其後上人召請せられ浴室に入沐浴あ

りて衣を着し念佛し給ふ休息の間畫工法眼宅磨こゝにありて鏡中より
 蜜に窺しめ其形相をうつさせらる丈六に坐し給ひて一方の足先キ出た
 り只こゝろなくありのまゝに畫せり上人重ねて参り給ふ時殿下此壽像
 をかけて開眼供養とぞ宣ふ上人驚き此足の出たるは平懐の形なりとて
 持念せられしかば忽然として其足引れ坐せらる姿となる是偏に上人の
 奇特又は繪師の名譽なりとて人々奇異の思ひをなしにける是より足引
 の御影とぞ稱しける今は深黒にして辨じかたし法然上人の第二世正信
 房湛空は徳大寺左大臣實能公の孫也菩提の眞路を願ふ志深かりければ
 浄土門に入ッて當院を再興し土御門院後嵯峨院二代の國師となり寛喜
 上皇御歸依の勅命にまかせ御遺骨を當山の御塔に納め奉る三世正覺上
 人も後深師院龜山院後宇多院伏見院の國師たり當院の縁起は伏見宮眞
 敦親王西三條公條卿の兩筆也外題之後奈良院の震翰にして畫は土佐光

信なり大聖文珠の三衣傳教大師の五條袈裟慈覺大師の三衣皇慶阿闍梨
 の袈裟あり其外五鉞等伏見院よりの御寄附として當院の什寶なり黃門
 定家卿の山莊といふ舊地は佛殿のうしろの山腹にありかの卿より以前
 當院諸堂魏々たり後世小倉山に寄りて號る物歟

◎京極黃門定家卿の山莊あるひは時雨亭と號る舊跡とこそろくにありか
 の卿の詠歌により又は少しき因になづみて後人これを作ると見えたり
 小倉の山莊といふは清涼寺西の門より二尊院までの道二町ばかりの民
 家ある所を中院町といふ此半を北へ入る細道あり竹林の後のかたに門
 ありて東に向ふこれを厭離庵といふ門の内に柳の水といふ清泉あり草
 庵の跡は西の高き所と見えたり中頃まで愛宕大善院の領にして庵室な
 どありしか後破壊して片ばかりの庵ありて禪僧など住めり

◎檀林寺といふはむかし檀林皇后の草創也これを嵯峨の御堂と稱す唐の

義空の開基なり亡廢して此地に淨金剛院を建る今は二尊院の塔頭なり
 ◎長明神のやしろは二尊院大門のまへなる祠なり祭る所は檀林皇后の鬘
 也といふ又日装宮は此南二町ばかりにあり皇后の緋袴を祭るといふ裏
 柳の社之大門のひがし中院町にあり上衣の散りし所なりとそ檀林皇后
 嘉智子は嵯峨天皇の寵愛にして西施毛嬙にも劣ぬ美人也薨じ給ふ後戀
 慕愛執の思ひを離散させんため遺命により嵯峨野の原に捨る其落散る
 所にやしろを建て祭るなりとぞ

◎西行法師の庵の長のやしろの南にあり

◎車僧の塚之ニ尊院のまへ敷の中に一堆の所ありむかしよりこれを稱す

◎五臺山清涼寺は小倉山の東なり嵯峨釋迦堂と稱す本尊は大聖釋迦牟尼
 佛の立像にして長五尺二分天竺毘首羯磨天の作なり脇士は十大弟子の
 立像共に厨子に安置す東西の壇上には交殊普賢安置す此尊容は三國無

雙の靈佛にして釋尊在世にうつしたる生身の尊像なり如來の母摩耶夫
 人釋尊を誕生して後七日に薨じ初利天に生る釋尊成道し祇園精舎より
 かの天に登り御母の爲に說法せらる事一夏九旬の間なり此時四衆の輩
 釋尊を見ず憂愁する事甚し然るに優填王つねに渴仰ありければ尊跡
 をうつさんとて寶藏の香木赤栴檀をえらびて天匠毘首羯磨にあたへり
 目連尊者は神通を以て佛の圓相をうつすに尊容速に成就して祇園精舎
 に安置せり釋尊安居の御法おはりて本土に歸る其時木像水精の階をあ
 ゆみて生身の佛を迎ふ釋尊木像に云ふ吾涅槃遠きにあらす來生の衆生
 を化度あるべしと共にあゆみて祇園精舎に入る當寺の本尊是也夫より
 唐土に渡り宋の代に至つて本朝一條院の御宇永延元年南都東大寺の衆
 徒の法橋齋然渡唐し靈告を蒙りて此尊像を感得し歸帆して同年八月十
 八日天聽に達し伽藍を建立し清涼寺と號す阿彌陀堂は棲霞寺と號す嵯

峨帝の皇子融大臣の營給ひし棲霞觀也本尊は阿彌陀觀音勢至の三尊也
 舊嵯峨帝の離宮ありしとき他人來てこれを彫刻す造り終つて西の刻に
 去る此故に作人を西と号す五大堂之宗旨眞言にして本尊は五大尊弘法
 大師の作なり中頃二尊回祿して今は不動大威德軍叱利の三尊を安置す
 二重塔の本尊は多寶佛を安置す三石塔は五大堂の前にあり嵯峨天皇檀
 林皇后融大臣の三塔なり八宗論池をは弘法大師此池の汀にて諸宗の僧
 と對論せし所なり棺掛櫻之池の傍にあり嵯峨天皇崩御のとき遺詔に
 より御棺を此櫻にかけしとぞ四ツ足門は西の門をいふむかし本尊建立
 の時一七日參籠する人ありある夜の夢に本尊告て曰汝か父は今畜生と
 生れて材木を牽牛となれり追善を修して佛果を得せしむへしとありし
 かば覺て後悲歎してかの牛を乞得て養ひしが三月十九日命終りければ
 其とき牛に差せたる衣をもつて如來の御肌を拭ひ又牛の骸をつみみ此

門の下に葬るかるかゆへに四ツ足門といふ又其牛の皮をはぎ如來の華
 曼にかへる今當寺の什物となる大念佛は毎年三月五日より十五日迄也
 圓覺上人これをはじむ

④大澤の池は清涼寺の良にあり菊が島といふは池の中島也天神のやしる
 ありゆへに天神島ともいふ庭湖石此かたはらの池中にありむかし嵯峨
 院ありし時巨勢金岡が建しなり

⑤津崎村岡碑は大澤池の邊にあり村岡の本名はのり子とて嵯峨の人津村
 左近の娘なりしが近衛家に仕へて老女となるこの人女子に似す頗る勤
 王の志に厚く嘉永安政の間大に力めたり維新の際終身祿を賜はる明治
 二十二年にこの碑を建てたり五所明神の社は大澤の西にあり名古曾籠
 は其北にありむかしは此地に瀧殿有兼好か家集に見えたり

⑥大覺寺は大澤池の西にあり眞言宗にして佛殿には五大尊を本尊とす弘

法大師の作り給ふ也開基は淳和帝第三の皇子恒寂法師なり代々法親王御住職し給ふ也嵯峨天皇の故宮を精舎として大覺寺と号す菖蒲谷といふは大覺寺の北にあり小松中將惟盛の息女六代御前北の方姫君など此ところに忍んでありし所なり八角堂は大澤の西にあり後宇多院の陵なり内に五輪の石塔あり昔は堂の形八角なり今も其名を呼ぶ相澤池廣澤大澤の中にあリ

◎廣澤池は大澤の巽なり寛朝僧正此池をつくりしといふ周圍凡そ十二町あり中秋の月を見んとて都下の貴賤池の汀に臨んでよもすがら盃をめぐらし千里くまなき空のけしきに月も宿かす廣澤の池と詠しも今さら
に千々に物悲しく風は織雲を掃て淨く露は月明に降りて寒し實に觀月の勝地なり遍照寺山その向岸にあリ

◎遍照寺山は池の乾に向ふたる山也いにして寛朝僧正のひらさし眞言興

降の地遍照寺の舊跡之山の麓にあり本尊之十一面觀世音赤不動共に弘法大師の作也今池の裏村の草庵に安置す坐禪石遍照寺山の半腹にあり寛朝の坐禪せし所也登天松は同山の嶺にあり池の汀より見ゆ寛朝此松の梢より天に登りしといふ佐古曾の水池の西のかたにして芦原なり觀音島は池の乾にありいにしへ遍照寺より此島に橋ありて觀音寺あり兒のやしろはは池の西道の傍にあり寛朝僧正の常に傍にて仕へし兒童あり寛朝登天の後悲泣して終に此池水に身を投て死す其靈を祭るなり兒ヶ石は坐禪石の下にある小石なり寛朝坐禪のとき兒童此石に頭をたれて眠るとなん釣殿は兒のやしの傍池の汀にあり兒童の靈此所に現しとぞ又釣殿橋大道法師足形池屏風岩音頭山千壺の井さいれ石等ありしといへど今はその名を存するのみ深草里は清涼寺のひがし南也今八軒といふ土器つくり住する也其人の氏を深草といふとぞ

◎嵯峨野といふは大覺寺清涼寺のはとりを北嵯峨といひ天龍寺法輪寺の邊を下嵯峨となづく野宮は其中途なりいにしへより閑靜の地にして故人も多くこゝにかくれ秀味しうまの和歌數ふるに違いなし源順げんじゆんも此地に遊んで紫藤しじゆの賦ふを作り樓臺ろうだい空くうく僧侶そうりよの室むろとなりぬるを歎なげさしと文粹ぶんすいにのせけりこゝは舊野山きゆのやまとも田獵でんりやうの地にして嵯峨帝始さて御狩みかりありてより文德清和陽成ぶんたけせいわやうせいの三帝はかこたらせ給ひしが光孝帝かうかうかさねて興し給ひ御幸みゆきなりぬあるひは此野へ官人くわんじんを遣つかはされて松虫まつむし鈴すずなどをとらせ給ふに其とき野に虫屋むしやを造つくり音ねよさ虫むしを撰まりて奉りける嵯峨帝御位さあまを淳和帝じゆんわに譲らせ給ひてこれなる離宮りきゆうにかくれ嵐嶺あざなの白櫻はくおう龜緒きしゆの落月らくげつに叡慮ゑいりよを慰めたまふ世に嵯峨さあまの十景じゆしやうといふは叡岳晴雪ゑいぎやくせいせつ、難瀨飛瀑なんせひはく、遍昭へんせう孤松こしゆ、愛宕あいたか雲樹うんじゆ、五臺晨鐘ごたいしんしゆ、幡山靈社ばんざんりやうしや、嵐嶺白櫻あざな、仙翁せんおう麥浪まくろう、龜緒落月きしゆらくげつ、雄藏紅ゆうざうべに楓かきをぞ稱しける

◎野宮は小倉山の巽たつみなる藪やぶの中なかにあり悠記ゆき主基すまきの両宮りやうきゆうありて神明を祭る黒木の鳥井小芝こしば壇だんはいにしへの遺風いふうなり伊勢太神宮へ齋宮さいきゆうに立せ給ふ内親王ないしん此所に三とせはかり住給ひて菝舘かき潔きよし給ふ齋宮さいきゆうのはじめは垂仁天皇の御宇皇女倭姫命やまとひめのみことなり

◎常寂寺は野宮の西にしにあり法花宗ほふけしゆにして開基かいきは日慎上人ひしんじゆんなり本尊ほんそんは釋迦多寶しやくぢやたぼうの二佛也定家卿じやうけあきの社は南の山上みなみにあり此所も彼卿かあきの山莊さんじやうのよしこゝに高倉院たかくらゐんより小督局ことくきよに賜たまふ車琴くるまといふ名琴あり後代ごだいに至りて金吾秀秋きんごしゆの手にありしを當寺あうじに寄附よせせしなり

◎靈龜山天龍資聖禪寺りやうきせんてんりゆうしやうせいぜんじと五山の第一ござうなり下嵯峨大井川さあまの北きたにあり開基かいきは夢窓國師むそうくにし諱いみなは智瞳ちとく又疎石そせきと號なづしあるひは木納叟もくなうとも稱なづす勢州せいしゆの人なり姓せいは源氏げんじにして宇多帝九世うたの孫まごなり母は觀音くわんおんに祈いのり金色こんじきの光西こうせいより來るを吞のよと夢見ゆめみて妊にんし十三月じゆんじやうにして誕生たうじゆす四歳しさいにて母ははにかくれ九歳の

とき平鹽教院へいえんけういんに至り出家し十歳にして法華經を七日に誦し母の恩に報
 じみづから母の死屍しひがた九變の相を書て獨坐どくざ觀想し十八に至り慈觀律師に
 禮し具足戒ぐそくけいをうけ三年か間顯密けんみつの教をならひしかと猶も大道の發明に
 足らずとて道場を建百日聖慮せいりよを求められしに期滿きまんの日過て座中恍然と
 して夢の如く覺へ一僧來り夢窓をひき一寺にいたる寺を疎石といふ又
 一寺に至るこれを石頭せきとうといふ其内に一人の長老わり夢窓をひかへ持た
 る一軸ぎくをあたへてよく奉持ほうじし給へといふ寤さめて後夢窓これをひらき見る
 に達磨半身たつまはんしんの畫像也夫れより志を定め禪觀に歸し名を疎石とあらため
 字を夢窓むそうといふ觀應二年九月三十日七十七歳にて寂す當寺の本願は足
 利尊氏すけのちかの後醍醐帝追福つひくの爲に建立せし也いにしへ此地に檀林寺あり荒
 廢して其後後嵯峨龜山院等仙洞せんどうをいとなみ吉野の櫻をうつし靈殿れいでんの西
 には藥師院やくし東に如來壽院とかまへ小倉の山戸離瀬の瀧もさなから御垣

の内に見へて畫工の筆力にも及びがたし又中書王といふは延喜の御子
 兼明親王の事也清慎公せいしんこうの説ごんによりて是なる山莊さんさうに籠玉こもりたまひ菴裘あまぎの賦ぶを作
 り給ふも此所なるべし佛殿の本尊は釋迦佛脇士には文珠普賢ぶんしゅふけんを安置す
 壇上の牌はいには天照皇太神の銘あり梵天王帝釋天達磨臨濟百丈の像は左
 右の壇上に安置すいにしへの佛殿を覺皇寶殿と號す堂前に其跡あり佛
 殿はむかしの法堂なり昭堂は聯芳れんほうとなつて開山の像尊氏の像地藏尊
 を安置す尊氏たうぢの念持佛なり又堂内に開山七朝國師號の勅書七通を刻方
 丈の庭にはは夢窓國師の作にして池を曹源池そうげんちといふ書院を集瑞軒しゅうずいけんとあづく
 塔頭多寶院たつとうたぼういんには後醍醐帝の御廟あり同金剛院の開基は夢窓の上足普明
 國師にして光嚴院帝の御廟あり同眞乘院は笑山和尚の開基にして細川
 常光つねみつの茶亭ちやていあり其前に水盆すいぼんあり是龜頂塔きやうたうの礎石そせきなりとぞいにしへ天龍
 寺に九重の塔ありこれを龜頂塔となづく是等は皆往昔のことにして今

は荒れたり

●芹川は野宮のひがしを流れ末は大井河に落る小川なりむかし芹川殿といふ御所あり龜山院御幸ありし所とぞ

●歌詰橋は天龍寺のまへ芹川の流れにかくる橋なり西行法師此所を通りたまひしとき奇童に逢ふて和歌の贈答數首あり後に西行返歌につまりしより號るとぞ今は名のみ存せり

●薄馬場は天龍寺の東院のほとりにありいにしへ橋氏薄殿こゝに住す亦その名のみ残れり

●龜山は天龍寺の西なる山也龜の甲に似たるゆへ號く後嵯峨帝龜山帝離宮をいとなみ住せ給ふ舊跡なり

●嵐山は大井川を帶て北に向ふたる山なり龜山院吉野の櫻をうつし給ひし所とそそれより櫻の名所となりしが唯だ櫻のみに限らず夏の緑樹秋

の紅葉冬の雪見いづれも絶景にして訪ひ來る人常に多し戸難瀬瀧は櫟谷の西にあり大井川に落る也大井川の一名をとなせ河ともしいふはこれよりなり

●坐禪石とあらし山の上にあり夢窓國師こゝに來り坐禪し給ふと也嵐山城は峯に城跡あり細川右京太夫政元の家人香西又六郎元近といふもの謀叛して永正年中に築く所なりと藏王谷は城跡の西にあり吉野山をうつして藏王權現を安置す今に堂あり

●大悲閣とあらし山の麓に道ありて渡月橋より七町ばかり西なり本尊觀音の立像にして惠心の作なり角倉了意が碑あり羅山子これを撰す了意は大井川の巖石を截て北丹波より舟筏を通はし材木の運送を自由にせし人なり

●智福山法輪寺と渡月橋の南にあり眞言宗にして本尊は虚空藏菩薩の坐

像なり道昌法師の作といふ脇士は明星天雨寶童子なり當寺は天平年中
 の建立にして高井寺といへり天慶の頃空也上人こゝに住て舊寺を修造
 し念佛常行堂とす中興の開基は道昌僧都姓は秦氏にして讚州香河郡の
 人也弘法大師に眞言の密法をうけ虚空藏求聞持の法を修せんとして此寺
 に一日參籠し給ふ五月の頃皓月西山に隠れ明星東天に出る時闕伽水
 を汲に光炎頓に耀て明星天衣の袖のうへに來影し忽虚空藏菩薩と現
 れ給ふ縫の如く染るか如く數日を經といへとも其體滅せず是生身の
 尊影なりとて道昌則虚空藏菩薩の像を刻袖の像を腹内に收る此時弘法
 大師を請して開眼供養せり是當寺の本尊也貞觀十六年に阿彌陀堂を改
 て法輪寺と號す落星井又明星井ともいふ本堂の南にあり井のうへに社
 を建て明星天をまつる道昌此井にて垢離し給ふとき星くだりけるとな
 り禪橋は樓門の前にかくる橋をいふ參籠堂は都の工職人此所に籠り

一七日斷食し瀧に垢離し本尊に智福を祈る近年斷食の盡つねにたへま
 わらず

④大堰川の水は北丹波より流れて水尾川清瀧川に落合ひ猿飛龍門瀧大
 瀨等の名ありてあらし山を帶し渡月橋を経て末は梅津桂の里のひがし
 を流れて淀川に落る此河の流れはつねに清らかにして下す筏のかずか
 ず又は遠近の騷人扁舟にみづから棹さしめぐりその岸この岩間に
 よせ春をとめぬ水のしがらみに花をわしみ又淺瀬を織ふて縹を垂
 るあり水上に踊る若帖の鉤を争ふて牽動すを樂み小石がちなる所へ
 は網を敷て夜に入るまでも狩ありき凜々たる河風に暑を忘れ彌増の興
 に乗じて月に歩し歸るも多し續文粹には天下の勝地は大堰川に過たる
 はなし城中の名區は嵯峨野にしくはあらずと右大臣師房の云ひしも理
 なり

◎渡月橋は大井川にありて法輪寺へ渡る橋なり一名は御幸橋法輪寺橋と
もいふ

◎小督櫻は大井河の北三軒茶屋の東敷の中にあり小督局は櫻町中納言成
範卿の女禁中一の美人ならびなき琴の上手也高倉院の御愛妃なりしが
平相國清盛に恐れて此嵯峨野に隠る彈正仲國は勅を蒙りて寮の御馬を
給はつて明月に鞭をわけ西をさしてぞあゆみけるおしかなく此山里と
吟しけんさがの秋の夜の空いと哀にところへ尋めぐりしに龜山
のあたりちかく松の一本むらあるかたに幽に琴の音聞へぬれば仲國さ
てこそと嬉しく門たよきをし入て御糸をわたし頼て御返事を給はりい
そぎ歸り参りしに主上は奇をゆふへの御座にならせたまひける

◎千鳥淵は小督櫻の西貳町はかりに巖ありこれを身投石といふ淵之南の
岸のもとなり横笛は龍口に離れて此所に身を沈し由盛衰記に見へたり

◎西行櫻と法輪寺の南にあり西行法師此所に住て櫻元庵と號す今の證菩
提院これ也西行田といふ字の田地此邊にあり宗祇法師此ほとりに住し

◎靈龜山臨川寺は渡月橋の東にあり禪家十刹の第二なり三會院の本尊は
彌勒佛にして坐像也佛殿の額三會院は足利義滿公の筆とぞ此地は舊龜

山法皇の仙居にして建武二年十月後醍醐天皇より開山夢窓國師に賜ふ
也當寺の庭は夢窓の作なり

◎鹿王院は臨川寺の東にあり禪宗にして十刹也佛殿の本尊は釋迦佛脇士
に十六羅漢を安置す運慶の作開基普明國師の像尊氏の像と右の壇上に
安置す當寺の本願は將軍義滿公にして至徳元年の建立なり什寶に佛舎
利あり傳に曰將軍實朝公の靈夢によりて宋國へ賜物をつかとし佛舎利
を傳來し相州の大慈寺に安置す後光嚴院帝の時夢窓國師に勅して禁裏

に收り其後夢窓の弟子普明國師に賜る今當寺にあり毎年十月十五日舍利會を修すと

●車拆社は下嵯峨材木町にあり清原真人頼業の靈廟といふむかし此所を車に乗てゆくものあり忽牛倒れ車を折しとぞ今は遠近の商家賣買の價の約を違變なきやう此社に祈り小石をとりかへり家におさめ満願の時伴の石に倍して此所に返すと

●有栖川材木町のひがしにあり北より流るゝ小川なり齊宮有栖川のひがし人家の北側にあり

●帷子辻は材木町は東にあり上嵯峨下嵯峨太秦常盤廣澤愛宕等の別れ道なり帷子辻といふは檀林皇后の骸骨さが野に捨しとき帷子の落散りし所也と今は名の残れり

●安堵橋は帷子辻の西にありむかし清涼寺のはとろ火災に及ふ赤旗檀の

香比叡山に薫す大衆大ひに驚て嵯峨に奔る此所にて尊容に過なきを聞て安堵す是より名づけ初しとぞ甲塚は安堵橋の左にありむかし火の雨降し時諸人こゝに隠るゝといへり油掛地藏は橋の西にあり諸人願望の時油をかけ祈也

●常盤社は辻の北にあり杜の下に石佛の阿彌陀佛を安置す乙子地藏は杜の西にあり六地藏巡りの其一なり毎年七月廿四日地藏會あり

●常盤墓は地藏堂の傍源光庵の庭にあり牛若丸の母常盤御前此里の人なり此ゆへに名とす里人此所に墳を築く

●太秦廣隆寺は二條通の西太秦村にありむかし應神天皇の御宇秦人日本に來り鬮をやしなひ機織をたくみ帛綿をつくりて人々の膚をあたためたり故に膚を秦と訓して氏を賜り天皇ふかく賞したまひ此地をくたし給ひぬ秦氏則秦始皇の廟を建けるより太の字をくはへて太秦と訓ける

なり當寺のはじめは推古天皇十二年八月に大和國斑鳩宮にて聖德太子
 近臣秦川勝を召て宣ふは昨夜夢に是より遙北のかたに一村あり楓林繁
 茂し清香常に薫じ林中に大なる朽木あり無量の賢聖諸經の要文を誦し
 或は天童妙花を供し又木より光を放微妙の聲あつて妙法を演る今われ
 彼地に住んと川勝則駕をめぐらして前驅す其日葛野の大堰に臨んでこ
 れを見給ふに夢の如し楓林の中に大圍の桂樹あり異香薫し其樹の空虛
 に寄瑞の寶閣あり光明赫々として蜂多く集り聲を發す隨身これを拂と
 も盡す凡人は蜂と見れども太子は賢聖と見給ふ則假宮を蜂岡のもとに
 造て川勝に勅し百濟より奉る佛像を安置しこれを蜂岡寺といふ後に廣
 隆寺と改む廣隆は川勝の名也本堂の藥師如來は向日明神の御作也傳に
 曰山州乙訓郡向日明神の社前に槁木あり幾回の年を歴こををしらず一
 日異人來てこれを伐て佛像を造り南無醫王尊藥師佛と稱し忽神殿に入

て見えす衆人は是を傳聽て集拜すしかも靈驗ありて耳目を驚す同郡大原
 寺に智威法師といふ人唐より來て居住す社司等かの僧にあたへければ
 都鄙袖をつらねて群詣し感應ますく新なり智威没して後丹後國石作
 寺にうつす其後清和天皇勅して當寺の本尊とし給ふ也待宵小侍從この
 本尊の靈驗を蒙る事源平盛衰記にあり太子堂には聖德王御自作の影像
 を安置す代々の天子より黃檀染の御袍御下襲表袴御内着石帶等を毎歲
 贈進し給ひしと地藏堂は金堂の西にあり地藏尊は道昌大僧正の作なり
 辨天社は池のひかしにあり此堂は紅蓮多し炎暑の節盛をなして觀とす
 石燈籠之太子堂の前にありこれを太秦形と賞美す古風を慕ひて摸形と
 するなり土用塚は太子堂の西道の中央にあり太子經王を収し所となり
 大酒明神は天照太神八幡宮天滿天神を祭る一説には秦始皇を崇るとも
 又は秦川勝の靈を祭るともいふ桂宮院は太子堂の西一町はかりにあり

八角堂と稱す推古天皇十二年太子自土木の功を積で壇と築建給ふ所なり堂内に三昧の本尊を安置す二臂如意輪觀音則太子の御作也阿彌陀佛は隋煬帝より推古天皇へ送り給ふ本尊也聖德太子の像御自作にして坐像なり祖師堂は命堂の西南にあり中央弘法大師北は理源大師南は道昌大僧正の像を安置す又北の間には如意輪觀音を安置す每歲九月十二日夜戌の刻に牛祭の神事あり當寺の僧侶五人五大尊の形に表し異形の面をかけ風流の冠を着し太刀を佩一人之幣を捧て牛に乗四人は前後を圍從者は松明をふり立行列魏々として本尊の傍より後巡り又西のかたより祖師像の前なる壇上にとり祭文を讀此文法古代の諺を以て述る甚たり奇にして諸人耳を驚さずといふ事なし

◎木島社 是太秦のひがし森の中にあり天照御魂神を祭る瓊々杵尊大己貴命は左右に坐す糴粮社は本社のひがしにあり糸わた綿を商ふ人此

社を敬す西の傍に清泉あり世の人元紇といふ名義は詳ならず中に三ツ組合の石柱の鳥井あり老人の安座する姿を表せしとそ石鳥居は八角の柱なり森の入口にあり例祭は九月廿一日也文保三年四月覺士伊時遊仙窟を傳授せざる事を深く愁歎して此社に詣す林中に草を結し老翁あり常にこれを誦伊時こゝに至りて相傳し一帙を讀畢る後酬恩のため珍寶を送るにかつて庵なし是當社の應現なりとぞ

◎海生寺は太秦の南竹林の中にあり草菴にして開山深山禪師の像を安置す木像にして三尺ばかり倚子に座し拂子を持ッ此僧何れの姓の人といふ事を知らず常に破れ車に乗して四衢を往來す世の人呼て草僧といふ又七百歳の年歴の事を語る故に名を七百歳とも稱すとなん今は空しくなりぬ

◎梅宮は四條の西梅津里にあり宮幣中社なり祭る所四座にして酒解神大

若子小若子酒解子神なり相殿には橘贈太政大臣清友檀林皇后嘉智子を祭る此皇后は嵯峨天皇の愛妃なりしかども太子なき事を常に愁て酒解神を祈り給へり既に感應ありて妊身となり則當社の清砂を御坐の下に敷太子を降誕し給ふ仁明天皇是なり故に世人産月に臨ば當社の砂を取て帶襟に佩之此遺風なりとぞ

◎紙漉場は梅津村にあり桂川の水力を假りて紙を製す明治九年の創設にして實に京都に於て機械製紙の始なり

◎梅津川は大井川の流なり此所に舟渡しあり山田渡しといふ材木を商ふ民家多し

◎長福寺は東梅津にあり禪宗にして開基は太皇太后大藏國師大寶輪といふは花園院の御塔なり

◎松尾社は梅津の西即ち上山田村にあり別雷山は社のうしろの山なり當

社の明神の降臨の地なり松尾山ともいふ官幣大社なり祭る所二座にして大山咋神市杵島姫なり大寶元年に秦都理といふ人社を建て分土山より遷し奉る松尾七社とて月讀社、櫛谷社、三の宮、宗像社、衣手社、四大神、本社と合せて七社なり例祭は四月上酉日仁明帝承和四年に始る神興七基西七條の御旅所より桂川を舟渡しにて祭禮あり舍利殿本社の南にありいにしへ此所に大木の杉あり谷堂の延朗上人の曰早くこれを伐べし杉の木の中に奇瑞あらん神官斧をうつに忽ち本社の傍に倒る杉の中より銅塔出て舍利を盛諸人奇異の思ひをなして延朗の言を信じ三層塔を建てこれを安置すと今となし

◎月讀社は松尾の南二町にあり松尾七社の内なり當社鎮座の年歴知れず齊衡三年三月に山城國葛野郡月讀社を松尾の南に遷すよし文德實錄に出たり又文德帝御宇仁壽三年に痘瘡大に流行して諸人これを愁ふ此時

當社の神託ありてその害を救給ふ是よりして貴賤疴瘡の災を免れた
め此社に詣で神のたすけを祈る由三代實錄にあり

◎華嚴寺は月讀の南谷村竹林の中にあり宗旨は華嚴にして本尊は大日如
來左に釋迦佛頭に寶冠を戴て長一尺計是華嚴の相なり右に開基鳳潭
像左の手に華嚴經を持ち右の手に如意を持つ門の額華嚴寺は黃檗隱元
の筆左右の聯は鳳潭の筆也此所之最福寺の延朗上人の住みし谷堂の舊
跡也近年鳳潭和尚華嚴宗を再興せんとて松尾安照寺を遷して華嚴寺と
改め此地におゐて寂す

◎衣手社いにしへ松尾のひかしにあり洪水に漂流し樹木絶て河原となる
衣手社は松尾の社内に有り

◎西芳寺之松尾の南葉室にあり禪宗にして本尊阿彌陀佛は聖德太子の御
作なり開基は聖武帝御宇天平年中に行基菩薩中興は夢窓國師也方丈の

庭之夢窓の作也庭中の造化四時の風光玄妙にして又比類なし西來堂瑠
璃殿釣寂菴彌精寶風店縮遠亭黃金池向上關指東菴湘南亭潭北軒貯
清士峰一覽影向石等あり奇景を極む

◎衣笠山地藏院は西芳寺の南にあり禪宗にして天龍寺に属す本尊は地藏
尊にして開山は宗鏡禪師也夢窓國師の法嗣にして字を碧潭と号す舊此
地は衣笠内大臣家長公の山莊なり後山を衣笠山といふ細川頼之當寺を
建立し諸堂壯嚴なり應仁の兵火に罹て亡廢す今延慶庵のみ遺れり

◎葉室山淨住寺は禪宗にして黃檗派也本尊は如意輪觀音天竺佛にして
牛和尚感得の尊像なりいにしへの開基は興聖菩薩なりもと此所之葉室
中納言定然寺と建て閑居し給ふ年ふりて寺廢を元祿二年鉄牛和尚再興
して禪刹となさしむ

◎文德天皇陵は下山田の南陵村にあり御靈社中桂村にあり橋逸成を祭る

とぞ

◎桂川は夫井河の流にして舟渡しなりしが今は橋をかけたなり丹波道なり上野橋は十町はかり北にあり梅津の南なり桂里は川の西にあり神代の時月讀尊降臨し給ふこゝに桂樹あり故に號るとそ館の名物也

◎桂の離宮は桂川の岸にあり三町四方の地なり昔豊臣太閤千利休に命じて作らしめたる園地にして閑靜幽邃をさばむ桂宮の別業なりしが明治十六年より宮内省の領となり離宮とせらる

◎入遠寺は桂の西河島にあり西本願寺の懸所にして西山御坊と稱す阿彌陀堂本尊は安阿彌の作なり開基は覺如上人當宗の開山親鸞聖人より第三代にして道德兼備の上人なり觀應二年正月十九日八十二歳にして入寂す堂後に覺如上人塔ありケチくの面當寺にあり木作の面なり早の年里人これを祭り雨を祈れば忽其驗あり一年西六條本寺の寶藏に收し

に寺内震動して止す又此所に返し今にあり當村に災われはケチくと鳴てその凶瑞を知らず故に名とす

◎大枝坂之檜原の西一里にあり峠の西壹町ばかりに山城丹波國界の立石あり此所民家多し峠の里といふ丹波國の産物を荷ひ運び賣かふ市場なり從來險難の坂道なりしか明治の世に至り隧道を通して運送を便にせり

◎峠地藏大福寺と號す大枝峠にありむかし市盛長者といふもの一人の娘あり難産にかゝりて空しくなる惠心僧都此所に宿し持念觀法の時かの女顯れ出冥土のくるしみを救ひ給へと願ふ僧都いろくの法門を説給へは女いふやうもはや苦患をまぬかれたり我か誓ひに永く産婦の難死を救ふべき也地藏尊を作つてこゝに安置し給へと言終つて去ぬ此ゆへにかの女の塚に生したる栢樹を伐て地藏尊を作り一字の堂を建て安置

せり今の本尊これなり

◎唐櫃越葉室の淨住寺地藏院の間より丹波の王子村へ出る間道なり時に大木の松敷株あり

◎大原野は檜原より坤二十町ばかりにあり民村多くいにしへより名あり

◎大原野神社は檜原の坤位凡そ二十町の所にあり官幣中社にして武甕槌命齊主命天津兒屋命姫太神の四座を祭る往昔仁明帝嘉祥三年に左大臣冬嗣公南都三笠山より勸請し平安城守護神と定め給ふ玉條后順子始て詣給ひしより藤氏の後宮行啓ありしなり奈良と都より道のはど遠ければ大原野にうつし后妃夫人の參詣たやすくあらんと也例祭は二月上旬の卯日なり鯉澤池は社の南にあり中島に龍神社有池の傍に瀬和井の清水あり

◎小搦山勝持寺は大原野神社の西北にあり花の寺といふ宗旨は天台にして本尊と薬師如来傳教大師の作なり本堂の額は小野道風の筆當寺はじめの開基は役行者にして自作の不動明王を本尊とし大原寺と號す不動尊今堂内に安置す伽藍僧坊四十九院巍々として嚴重たり年經て破壊に及びしを佛陀上人再建す岩窟の石不動は弘法大師の作なり西行法師像西行櫻堂前の左右にあり櫻は今は枯れたり西行菴室は山上三町とかりにあり當山の境内に櫻花多し盛の頃は都下の貴賤こゝに來つて終日花の陰にて歌よみ西行の靈を慰るも多し元和年中若狹守勝俊世榮をさけて此山に幽居し名を天哉翁長嘯子と自稱してまた東山靈山にも居れり此人和歌に名高く舉白集をかけり長嘯塚彌生櫻驢上岩指月池等此地にあり細川玄旨幽齋も長岡に閑居せられし時連歌の宗匠數輩あつたり此寺において元龜二年二月五日より連歌を興行したりこれを大原千

句とて世に名高し連歌の懐紙は當寺の什物となる

◎長岡の都跡は桓武天皇延暦三年にならの京よりうつされし也上羽村の良にあり宇を御所屋鋪といふ檜原の南より山崎の北まで南北長き岡山なれば長岡と號る歟此地に都のありしは十三年の間にして今の平安城にうつされし也今は總名を西の岡といふ

◎栢社は灰方の南林の中にあり祭る所は大歳神にして向日社地主神の御母なり例祭之九月廿一日拜殿において能あり

◎西岩倉金藏寺は灰方の南長峯坂本の西山上にあり桓武帝の御宇平安城遷都の時王城の四方へ經玉を收らる此所も其所にして岩倉と号す石藏此山上にあり天台宗にして本尊は十一面觀世音なり向日明神の御作をいふ不動堂には五大尊を安置し念佛堂には阿彌陀佛を安置す湖は三

段に流れて一の瀧二の瀧三の瀧といふ向日明神化現し給ふ所なりとぞ開基は隆豐禪師此人は薩州河邊の人父は薩摩大守重命なり十三歳にして出家し元興寺の道昭に隨ふて禪法を聞龍門寺の義淵は就て維摩會を曉し又吳國の智識に隨ふて三論の微旨を受けあるとき靈夢によつて當山に登るに弓箭を帶する老翁忽然として來る降豐これをあやしみ翁はいづくの人ぞと問ふ翁こたへてわれひかしより此山にすんで汝を待事久し時に金光の鹿とひきたりければ翁箭を放つにその矢かたはらにあり楠にたつ則その矢をぬく跡より光命を發す翁これをさして靈木なり千手の像を造るへしといふ降豐その言に應じて尊像を彫刻せり今の本尊これなり翁又曰此地を師に授くべし佛閣を建て此像を安置したまへわれは守護神となり向日山に止るべしといひ終つて去るすなはちその神勅にまかせて伽藍をいとなみしなり

◎西山三鈷寺之岩倉の南灰谷の上におり宗旨は天台、眞言律、淨土四宗兼學にして本尊佛眼曼陀羅は觀性法橋の筆也日本無二の曼陀羅にして信するに靈應奇驗あり左右の壇上には釋迦彌陀の二佛を安置す惠心僧都の作也堂内には智者大師像善導大師像善惠上人像宇津宮蓮生法師像等を安置す金邑不動は智證大師の作也方丈の本尊には寶冠阿彌陀佛を安置す抱止阿彌陀如來は慈覺大師の作也むかし宇津宮賴綱入道蓮生法師生身の阿彌陀佛を拜せんとてつねに願へりあるとき本尊に向ふて念佛する事餘念なしおほへすして目を閉けるに菩薩の來迎を拜す感信し餘波をかなしみて本師を抱き止め奉りしとればへてあたりをみるに則つねに念する本尊なり故に世の人抱止の如來と稱す貞永元年八月十五夜也當寺の開基は源算上人也觀性法橋慈鎮和尚も此山に住たまひ中興け善惠上人也善惠廟塔三町ばかり山下なり碑の銘あり世に西山上人と

いふ淨土宗一派の開祖也當山の絶頂を齋嶽となつく三峯ありて其形三鈷に似たるをもつて三鈷寺といふ

◎西山善峯寺は小盤の山上におり天台宗にして本尊は千手觀音なり此本尊に加茂の神木槻木なり行圓法師靈瑞を得給ひ弘仁法師を招て千手の像を作らしむ是京都華堂の本尊也その餘材を以て六尺の像を作る當寺本尊是なり阿彌陀堂の本尊は慈覺大師の作二重塔には大日如來を安置す開基は源算上人舊因州の人にして孤となり道のかたはらに捨られしを所の人拾ひて養育し比叡山に登せて剃髮受戒し四十余年登壇重受の功を積惠心僧都の弟子となり靈夢を蒙り此山に登り石上に坐して七晝夜坐禪す忽然として老翁顯れぬれば此山の主阿知坂神なり上人早く佛場を建立し給はゞ大に可なり時に數疋猪來りて檢難を平にし化して去竟に天聽に達し後一條院御宇長久二年の秋伽藍成就し玉ひけり白山水

は當山寶光坊にあり源算上人如法經書寫のとき白山權現出現し五彩の雲氣立けるとなり仙翁石は路の傍にあり源算上人觀念し給ふ所にして坐禪石といふ阿智坂社は當山へ登る七回の中にあり此寺の守護神なり

觀性法橋慈鎮和尚尊圓法親王等の墳當山の北にあり

◎小鹽山十輪寺と善峯の麓小鹽里にあり天台宗にして善峯に属す本尊は

觀世音也花山法皇西國順禮のこじめ詣給ふ故に禪衣觀音といふ腹帶地

藏は染殿皇后安産平安のため作りたまふ尊像也在原業平塔は當山西

のかたにあり鹽籠古跡本堂のうしろ山上にあり業平鹽屋の景色を愛し

難波より潮を汲せ此所にて焼しとなり

◎權現堂は七條千本通にあり本尊は勝軍地藏にして聖德太子の御作也脇

壇には聖德太子自作の像あり又對王丸の守本尊地藏を安置すむかし對

王丸人商人に勾引て行道より逃歸り此寺を頼ければ住僧人商人の追

ひ來たる事を恐れて葛籠に隠して天井につる果して尋さたりて葛籠を

あやしみ開き見れば此本尊身代となりて此難を救ひ給ふとなり當寺は

權現寺と号し淨土宗なり本尊阿彌陀佛は惠心の作なり

◎源為義の塚は權現堂の前民家の間にあり保元二年後白川院の勅をうけ

て源義朝鎌田兵衛正清に申つけて父為義を誅せし所也則權現寺の持地

なり

◎嘉屋御所は朱雀の西道の北にあり田原藤太秀卿の宅地なりとそ今は知

るべくもあらず

◎水薬師寺は西七條の南にあり本尊薬師如來は延喜二年池中より出現す

辨財天社は本堂の乾にあり社の下に清泉涌出す平清盛熱病のとき此水

を汲んで冷せしとぞ辨慶石は護摩堂の前にあり古は三條辨慶石町にあ

りしとなり門の額は水薬師寺と書す當寺近年の住職泉南の筆なり

◎西寺の舊跡は梅小路の南にあり今松尾例祭のとき神輿神供所とす守敏の像梅小路西方寺にあり

◎唐橋は四ツ塚の西六町にあり秀吉公朝鮮出陣の時此街道をひらき給ひしゆへ唐街道といひ此橋を唐橋と號す又拾介抄にはひかしより唐橋通ありてこれは東寺の北といふ此條に川あつてその下流にかゝる橋なれば唐橋といふ歟今は考ふべからず

◎吉祥院天滿宮は唐橋の南にあり本社は菅神を祭る吉祥院にて吉祥天女を安置す傳教大師の作なり此所は菅家の御領地にして別荘あり菅家の祖清公卿延暦二十三年遣唐使として異朝に越く時に船中にして風波の難に値ふ折しも傳教大師求法の爲に入唐し同船して吉祥天女の法を修す忽願風吹て歸朝せり故に傳教大師吉祥天女の像を造る清公卿は此地に堂舎を建て此尊像を安置し吉祥院と號す石原井島居の傍にあり菅神

此水に神影をうつし給ふとなん近年書家烏石葛辰硯の銘をささじ

◎鳥羽里は四ツ塚の南なり上鳥羽下鳥羽とて南北一里はかりあり民家多し

◎實相寺は上鳥羽西側にあり法華宗にして開基は大覺上人なり本堂の脇壇に松永貞徳翁の像あり手に芦の葉を持長頭歴父圓陀磨とも稱す松永暉正久秀の落胤とて天正五年大和國信貴城滅亡のとき六才なりしが母方の親族に養れ成長の後武道を捨て細川玄旨幽齋を師とし長嘯翁を友とし和歌連歌をよくし諧諧を以て世に鳴る

◎芦丸屋は本堂の巽にあり貞徳翁閑居し給ひし所なり貞徳翁墓は芦丸屋のうしろにあり塔の銘には道遊軒明心居士とあり承應二年十一月十二日卒す八十二歳なり

◎廻地殿實相寺の南東側にあり六地藏巡の一なり毎年七月廿四日群參す

⑥戀塚は觀音堂の南淨禪寺の門前にあり羅山子の碑の銘を建つ願主と永井日向守直清なり戀塚二ヶ所ありいづれとも決しがたしある人の曰むかし此ほとりに池ありて年經し鯉すむ土人これをとりてことに埋むとなん故に鯉塚ともいふとと詳ならず

⑦戀塚寺は小枝の南八町はかりにあり堂の南に塚あり銘に曰渡邊左衛門尉源渡妻袈裟御前秀玉善尼墓天養元甲子年六月廿四日文覺上人

開基戀塚根元の地嘉應二庚子年建立とあり遠藤武者盛遠は出家して文覺上人といふ渡か妻に戀慕して千束の文を寄るに其言に隨ひ渡が姿と成盛遠に斬られ貞女の操を顯す事世のしる所なり

⑧法傳寺は戀塚の南にあり始は眞言宗にして本尊には藥師佛を安置す行基の作也門内にあり洛東智恩院住職圓智上人此寺に閑居して淨土宗と改む本尊の阿彌陀佛は惡心の作也善導大師像は法然上人の作なり法然

上人像は西山上人の作これを二祖對面の像といふ

⑨方便水門内の北にありはしめ里人を多くわつめ錢をあたへて念佛を唱させて井を堀しむるゆへ此名あり一念寺之法傳寺の南にあり本尊阿彌陀佛は春日作なり開基は眞阿彌陀佛といふ

⑩上久世藏王堂は醫王山光福寺と號し宗旨は四宗兼學にして本尊は藏王權現役行者の作又二王門の金剛力士は聖德太子の作也此寺の初は村上帝の御宇天曆年中にして淨藏貴所吉野の奥金御嶽の窟に籠りて一心に密法を行ひしが夢に藏王權現忽然としてあらこれ汝常に法施怠らず神妙の至り也今都に歸らば我をも供すべし永く有縁の衆生を守んと貴所奇異の思ひをなし袈裟を解て肩に結び背に負奉りしに忽化して木像となりたまふ桂川の西のほとりを上りしに持し給へる鉢自ら河水に落て水さかのぼりて北のかたに至る又一ツの森のうへに光明あり行てみ

れば辨財天の靈場也こゝに於て藏王の神像大石の如くにして動かす是
ぞ有縁の地と悟り則脚座にすへ奉り待念す同夜西のかたに大きな椰
生す又明天老翁あはれ椰に向ふて辨財天醫王普逝と唱へて拜す賞
所これを問ば翁答て辨財天降臨の地なり今時なる哉藏王權現此地に來
り給ふ早く佛閣を建て安住せば利益廣大ならんと言終て失ぬ貴所靈告
を蒙りしより一堂を營尊像を安置す

◎綾戸社は藏王堂の南にあり牛頭天皇を祭れる也例祭は四月十九日也六

月祇園會祭禮馬の頭と首かけて兒の騎馬にて當社より毎歲出るなり

◎鷺尾寺は中久世の西大敷にあり本尊は藥師如來にして鷺に乘し尊像な
りいにしへと壯嚴なる伽藍ありしが中頃回祿に及んで小堂となる

◎木下明神は此寺の西にあり辨財天を祭る也此里の氏神とす祭は四月己
の日也

◎福田寺は下久世にあり本尊は地藏尊にして行基の作なり摩耶夫人の像
は唐にて世の人安産の爲に梁武帝みづから作り給ふ赤旃檀の尊像なり
弘法大師入唐の時乞得て歸朝し攝州摩耶山天上寺に安置す後に此寺に
うつす龍神像は俊惠法師雨乞の法を修す板井清水は此寺の良にありむ
かしは福田寺の封境なるよし俊惠法師此ところに閑居す俊惠は宇多天
皇六代の苗裔俊頼の子也才智世に譽ありて敷島の道に達せり

◎向日明神は向日町にあり府社なり鷓鴣羽葺不合尊を祭る此所の氏神と
す例祭は四月中辰の日也地主の神は本殿の南にありて白日明神と號す
素盞鳥の孫大歳みまこの神の御子也石座神降臨の地は鳥井の内道の半にあり
向日山は當社の山をいふ又鳥見山ともいふ勝山と號するは豊臣秀吉公
朝鮮征伐として出陣のとき參詣し此山の名を社人に尋給へば勝山と答
ふ大開喜悅ありてこれより名つけ初しとぞ

◎真經寺は向日町の東の端にあり法華宗にして日像上人住給ひし所也

◎寺戸の願徳寺は法菩提院と號す宗旨は天臺にして本尊は正觀音なり開

基は慈覺大師山門の別院とぞ

◎乙訓社は井内にあり春日四所の明神を祭れる也此里の氏神とす祭は

四月辰の日なり

◎大慈山乙訓寺は西岡にあり當寺は推古天皇の御願にして聖德太子の開

基なり其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補し八幡宮の示現を蒙り大

師の像を彫刻せるに御首と八幡宮化現し神像にさざみ給ふ是密法擁護

のしるしなりと故に神佛合體の御影といふ當寺の本尊是也例載三月廿

一日開帳す又寶平法皇脱履のはしめ行宮とし給ふ是によつて法皇寺と

も名づくいにしへは方境廣大にして伽藍嚴重たり中頃南禪寺の伯英

和尚住職し又武州護持院再興ありて眞言宗とあらむ

◎阿伽井は乙訓寺の東にあり大師蜜法修行の時汲給ひし靈水なりとぞ

◎報國山光明寺は粟生村にあり宗旨は淨土宗西山流義の一本寺也本尊は

圓光大師の坐像にして自作なり法然上人四國へ左遷し給ふ時母儀の消

息を以て作り給ふ本尊なり世に張籠の御影といふ

阿彌陀堂の本尊は惠心僧都の作にして江州堅田浮御堂千體佛の中尊な

り熊谷蓮生法師諸國を負巡りて此所にとまり艸庵をいとなみて安置

すこれを念佛三昧院といふ法然上人の廟蓮生の塔は本堂のうしろの

山上にあり石棺は阿彌陀堂の傍にありて方丈には御鉢釋迦佛を安置す

當寺の草創は法然上人の滅後十六年にあたつて叡山の衆徒念佛宗の繁

茂する事を深くねたんで上人の御作選擇集を破して彈選擇集を並榎堅

者定照房といふもの著し隆寛律師に送る隆寛則顯選擇集を述て汝か解

案のあたらざる事は暗夜の礫の如しと書す山徒大に憤て圓基僧正に證

し奏聞を遂て隆寛を遠流に行ふ又上人の墳墓を破卻せんと評議しける
 を徒弟これを見て大に歎き御墳を他所へうつすへしと夜に入て石棺を
 掘出し其外上人所持の影像をそへて太秦來迎坊に送る其翌年安貞二年
 正月にいたりて上人の石棺より光明かゝりやさしかば來迎坊あやしみ光
 のすへを尋るに太秦より遙の南のかた粟生野のはどりに至る則此所に
 住する幸阿彌陀佛のもとに來りて其趣を語るに幸阿彌も不思議の靈告
 ありて互に符合す夫より上人の徒弟太秦より石棺を粟生野にうつして
 是を開き見れば上人の面貌宛存日の如し則當寺の山腹におゐて茶毘
 す時に忽然として紫雲空にたなひき異香四方に薫す則舍利を拾ふて廟
 堂を造立し淨土一宗の宗廟となす紫雲覆ひし所に松ありてこれを紫雲
 松となづく堂前にあり

◎木上山奥海印寺寂照院は粟生の南十町余にあり宗旨を眞言にして佛殿

の本尊は千手觀音安置す弘法大師の作なり二王門の金剛力士は運慶の
 作なりとぞ開基は道雄僧都又當寺の山上に人破岩と号する所あり妙見
 菩薩善財童子とあらはれ法華經を僧都にさづけし靈顯なり又本尊觀世
 音は椎の木のうちへに出現し給へり此ゆへに木上山といふ道雄僧都の俗
 姓は佐伯氏にして華嚴を學ひ後に空海に従ふて眞言の密教を授る嘉祥
 三年に權少僧都となる
 妙見のやしろは西の山林にあり此里の氏神とす祭は九月廿一日なりと
 云

◎柳谷觀音堂は奥海印寺村の西半里ばかりにあり立願山楊谷寺と号す本
 尊は千手觀音にして將軍地藏毘沙門天の脇士あり當寺は白川院御宇水
 觀上人閑居の地にして此本尊感得し給ふ
 楊柳の瀧は本堂の下壇左にあり此山より一流の溪川瀉くとして石に鳴

て流れ小倉の鳥井の前を経て山崎の北より淀川に入これを五位川といふ

◎長岡天満宮は開田村の西にあり御鎮坐の初は古此所に弘法大師開基の佛閣有又在原業平卿の亭館今の上羽の邊にあり菅公幼年の時業平卿伴以此寺にて和歌管絃などなり業平歿して後菅公時々こゝに入興せり時に昌泰四年菅公筑紫に謫遷し給ふ由を住僧ども聞きて路次まで送り別涙止時なし菅公即尊容を摸して授給ふ厥後社を營て長岡天満宮と尊崇せり伽藍は兵火に罹て亡滅し古の本尊薬師佛の脇士十二神の内一跡残りて今此地に安置す
社頭の道の左右は池塘廣くして風生じては細浪漲り 萍茂りては魚鱗かくる汀には紅葉梅櫻あり社邊には杜鵑花多くして四時の眺め甚だよし

◎大山崎天王の社之素盞鳥の御子八王子を鎮座し給ふ也鳥居の額は小野道風の筆なり山崎郷中の産沙とす例祭は四月八日にして神輿三基有り當社勸請 詳ならず神殿梁の銘に曰養老二年再興と書す
◎観音寺は天王山の東半腹にあり眞言宗にして佛殿の本尊は觀世音の立像聖徳太子の作也祖師堂に之弘法大師の像を安置す木食以空僧正中興して今の如く再建あり當寺の客殿より淀八幡の風景眼下に遮て風景極めて佳なり
◎賢寺は観音寺の南にあり補陀洛山寶積寺といふ眞言宗にして本尊は十面觀音の立像にして聖武帝行基大士の兩作也堂内の寶頭留の像は行基の作也庭上の石塔婆は聖武帝の御塔也三重の塔には大日如來を安置す當寺の什寶に打出の小槌あり聖武帝の御宇龍神捧しなり
◎妙喜庵は賢寺の麓にあり禪宗にして本尊十一面觀音也千利休此所に住

して二疊敷の園を建る秀吉公ねりく渡御ありて茶の湯ありしとぞ

◎天王山の城址は山崎の北にあり二ヶ所ありて一は山名氏の築く所一は豊臣氏の築く所なり近くは元治年中京都騒動の時に真木和泉守等の死せし地なり

◎離宮八幡宮は山崎往還今の停車場の側にあり鳥井の額は行成卿の筆也
神殿には八幡宮を崇奉りて社壇の下に石清水涌出す左右に隨身の像あり形相奇異にして他に比類なし若宮のやしろ武内臣は本社傍に有後の山を神峰山といふ當社は貞觀元年四月十五日行教和尚宇佐宮に詣て八月廿三日歸洛し山崎に至る時に村老出て和尚に對し去る七月十五日夜此地に神降給ひぬ其瑞日輪の如し又橘樹の木陰より清水ぬき出て異香薫ず行教これを天聽に達し勅を奉て清水を神鉢とし神殿を造營し給ふなり離宮の名は當社鎮座のまへよりありて弘仁帝の御狩の時夜泊

し給ふ山崎の離宮これなり此宮室に勸請し給ふゆへに離宮八幡と稱す
◎天満宮の社腰かけ石は菅公筑紫へねもむき給ふ時此所に休ひ玉ひし地なり

◎關戸明神は山城攝津の國界也いにしへ此所に關所あり關戸院と號す今は町の名となりて關戸町といふ谷の觀音と此町の南にあり閻浮檀金の像を安置す山中に瀧あり

◎男山神社は本は石清水正八幡宮といふ京都の南にして行程四里綴喜郡男山鳩嶺に鎮坐ある官幣大社にして三坐を祭る中央之譽田天皇即ち應神天皇仲哀天皇第四の太子にして御母は神后皇后也東の間は玉依姬即ち鸕鷀草葺不合尊の妃にして神武天皇の御母なり西の間は神功皇后開化天皇の曾孫氣長宿禰の女なり幼より聰明睿智容貌壯麗三韓を平て筑紫にありて應神帝を生給ふ貞觀二年六月十五日和州大安寺の沙門行教

和尚神殿を造營しけり行教は筑紫宇佐八幡宮に一夏九旬の間參籠して
 畫之大乗の經を讀夜は眞言を誦して法樂せしに入幡宮御詔宣あり我王
 城の近に遷坐して鳳闕之守護し國家を安泰なさしめんとのため其夜
 行教の三次に阿彌陀の三尊現じ給へり沙門都に上つて此由を奉聞しけ
 れば朝廷大に悦せられ遂に此山に神殿を營て永崇敬し給ふなり八幡
 の神號は筑紫管崎 驗松の下に入流の幡降下る赤幡四流白幡四流則此
 所に社を建て正八幡大菩薩と崇奉るによれり

◎一鳥居は山下宿院にあり八幡宮の額は佐理卿の筆なり二鳥井は七曲の
 麓に有り三鳥居は大師堂の前にあり石柱に正保二年正月從四位下行信
 濃守大江姓永井氏尙政これを建るとあり若宮は仁徳天皇を祭り若姫宮
 は宇禮姫吳禮姫を祭り水若宮は宇治の皇子を祭る上高良を武内大臣を
 祭る六朝の臣下にして壽三百十餘歳といふ下高良は藤大臣連保を祭る

神號を高良玉垂命といふ干満の兩願を以て奉行し給ふ故に玉垂と号す
 と也橘樹、影向櫻、楠等の各樹あり楠のみは今に残れり希代の大木
 なり安宗別當社、狩尾社、大塔、琴塔、太子堂、藥師堂、阿彌陀堂、
 元三大師堂、愛染堂等あり疫盡堂は一鳥居の南廊下の内にあり此所八
 幡宮御旅所也疫神は正月十九日一日の勸請也延喜式に曰山城と攝津の
 堺に疫神を祭るとあり世人正月十五日より十九日まで當山へ群參して
 其年の疫難を拂ふなり土産には蘇民將來の札目釘竹破魔弓毛鎧等を求
 めて家に收め邪鬼を退るなり本地堂は疫神堂の西に隣る極樂寺と稱す
 本尊は阿彌陀佛脇士は觀音勢至を安置す此三尊之本殿の御正躰なり堂
 前の鐵燈臺は豐臣秀頼公の御寄附也細橋は八幡住吉の二神影向あり
 し所なり石を布て橋の形となし注連をる傍に伊勢太神宮遙拜所あり
 又宮本坊、瀧本坊、開山堂、景清塚、稻荷社等あり大乘院は宿院科手

の間にあり當山の神宮寺なり本尊は千手觀音を安置す神殿は神功皇后をまつる愛染明王は方丈に安置す開基は興聖菩薩なり足立寺本殿の西にありむかし稱徳天皇弓削道鏡に帝位をゆつり給ふへさ旨和氣清丸を勅使として宇佐八幡宮に訴ふ神慮これをもゆるし給はず清丸此旨を奏するに道鏡怒りて清丸の二ツの足をさりうつはふねにのせて流す此舟宇佐の濱邊による猪來り清丸を負ふて神殿に至るときに社壇より五色の小蛇出て清丸が脛を舐るに二ツ足もとのごとく生出たり清丸歸洛の後男山に伽藍を建て彌勒佛を安置し足立寺と号す放生會は例歳八月十五日なり元正天皇御宇養老四年九月に征夷の事ありて大隅日向の兩國大に逆亂す故に内裏より筑紫宇佐八幡宮に御祈誓ありて其宮の禰宜辛島勝波豆米は神軍を引卒してかの國を征しことゆへなく敵を亡しけり其後八幡の御託宣に此度の合戰に多の殺生をなす間放生會をなすべさ

よし神勅ありければ諸國に至るまでも此時より始るなり今官祭は毎年九月十五日にして上卿代參議代以下それくの官人を遣はされ儀式甚だれごそかなり

◎德迎山正法寺は八幡町字志水にあり淨土宗にして洛東百万遍に属す本尊阿彌陀佛と惠心の作なり當寺ははじめ圓誓上人の草創にして天台宗なり中興聖譽上人淨土宗と改む後奈良院御宇天文十六年に當山の第十一世傳譽上人參内して說法す教慮にかなひ震筆の額を賜ふ德迎山とあり唐門の額なり其上勅願寺となる

◎女郎花塚は志水の南五町にあり人皇五十一代平城天皇の御時小野賴風といふもの男山の麓にすめり京に女を持って互に連理の契淺からざりしかの女八はたへ尋ゆきて賴風が事をとふあたりのさがなきもの答て此ほどはじめたる女房ましますが其所へ行給ふといふ女うらめしくお

もひ胸せまり遂に放生川の端に山吹かさねの衣ぬぎ捨身を投て空しくなる其衣くちて女郎花生出たるとなり頼風此花の本に立よれば女郎花の恨たる風情あり頼風これをあはれみて共に身を投て死けり其所を涙川といふ放生川の上みなり

◎如法經塚は男山の西に有桓武帝王城鎮護として四方に經王を收らる此所を南岩藏といふ心太橋は志水の南天神森へ行く道にあり夏の頃五月雨夕立に河水橋に溢るゆへ此名あり美濃山は志水の巽にあり後鳥羽院の愛妃美濃局此所にすめり待宵小侍従は此人の妹なり

◎洞ヶ峠は八はたの南半里にあり山城河内の堺也南峠ともいふ古跡なり

◎王塚は志水のひかし内里村の山にあり繼體天皇の陵なりといふ

◎美豆は淀大橋の南瓜の里なり大坂街道にしてむかし美豆の御牧とて庶あり

◎淀川は五畿内第一の大河にして山城、近江、河内、伊賀、丹波、攝津の水はこゝに會す河水はつねに溶々とながれて大坂へゆきかふ舟は夜とともになへまもなく岸には水車ありて波に隨ひ翻々どめぐる此所は鯉の名産にして美味あり高貴の献上に用ゆ故に常は遊獵を禁す淀の大渡いにしへは木津川御牧の西より北に流れ宇治川に合し舟渡しありこれといふ今のごとく木津川を南へ通せしは秀吉公の制作にかゝる

◎淀姫のやしろは水垂村にあり祭る神は三坐にして中央は淀姫神ひかしの間千觀内供西の間天神なり若宮と本社西にあり多寶塔には大日如来を安置す當社は千觀法師の勸請なり此所の産沙神とす例祭は九月廿三日神興一基あり

◎伊勢向宮小橋のひがしにあり天照太神を祭る此所浮島なり洪水の時も溢る事なしと

◎芹川里は淀の東北半里にありいにしへは天子遊獵の地にして行幸たへすありし也むかしは此里に川ありて三尺の根芹生す故に名とす

◎八幡宮は森の東にあり例祭は九月廿日神興二基あり上鳥羽下鳥羽塔の森竹田の氏神とす

◎城南離宮は白川上皇寛治元年に造營ありて遷給ふ仙居なり舊地と芹川の北より竹田里を限とす御所の南北に門ありて御殿と東面なり門前は鳥羽街道にして淀に至る北殿南殿田中殿馬場殿車殿等の名あり池の廣は南北八町東西六町にして蒼海を模して中に島を作り蓬萊山を築て巖を疊舟を泛て帆を飛し烟浪渺々と掉を颯して淀を下し春は花の陰にて月卿音楽を奏し秋と池水に月を湛て雲客秀詠を吟す上皇は元來寛仁の御心深ふして里人に牛車を永ゆるしたまふ又鳥羽院には震書之法華を講し安樂壽院の定海に命之て孔雀明王の法を修せしむ然るに法皇崩之

て忽保元の亂となり後白河院は此宮に塾し夫より次第に荒廢して遂に田野とそなりにける

◎北向不動院と城南神の良にあり本尊不動明王は興教大師の作也當院は鳥羽院の御建立にして王城の鎮護とし寶祚延長の勅願所也興教大師大和國信貴山の毘沙門天に參籠のとき靈遮生の珠を感得す鳥羽上皇に獻り不動尊彫刻の時御首に収給ふなりとそ

◎西行寺は不動院の北西側にあり鳥羽の離宮ありし時此所に住し宅地なり月見池刺髮塔庵室のまへにあり竹田村の郷士長谷川氏は西行法師の苗孫なりと今之唯だ言ひ傳ふのみ

◎安樂壽院と竹田里即ち深草の不動院の北なり鳥羽上皇城南の離宮にましく北殿をひらきて當院をいとなみ保延三年十月十九日覺行法親王を導師として慶し給ふ宗旨は眞言にして古義新義ともに修學す

本御塔は北のかたの本尊をいふむかしは五重の塔也此ゆへに名とせり
本尊は卍字阿彌陀佛と稱す尊像の胸面に卍字あり此堂の下には法皇震
筆の法華經を收む是當院の寺鎮とす藥師堂之行基菩薩の作り給ふ藥師
如來を安置す

三昧土佛は釋迦彌陀藥師の三像なり弘法大師の作なりとそ

基盤梅は上皇城南の宮中において圍基を禁じ玉ひ基盤を集めて此樹下
に埋めさせ給ふ此ゆへに名とせり當院は今に至りて圍基を禁ぢけると
なり

新御塔は南の方の本堂をいふはしめは五重塔なり本尊は地藏菩薩にし
て定朝の作也美福門院の念持佛といふ

◎墨染寺は藤の森の南にあり貞觀帝降誕のはしめに寶祚祈のため大相
國忠仁公の建給ひし貞觀寺の舊地也今は法華宗にして日秀上人開基す

慶長の頃は方丈書院巍々として秀吉公來遊の所なり

墨染櫻は堂の前にありむかしと此所までも深草といひて野邊には櫻多
し寛平三年堀川太政大臣昭宣公薨し給ふ時上野岑雄哀傷の和歌を詠せ
しかと此ほとりの櫻墨染に咲しとなり

墨染井は當寺の門前町の西茶店のまへにあり由來さだかならず

◎欣淨寺は墨染の南にあり淨土宗にして本尊には阿彌陀佛を安置す立像
にして聖德太子十六才の御作なり此地はいにしへ深艸少將の第宅なり
少將の塚小野小町の塚堂のうしろ池の東にある

少將かよひ道は池のひがし藪の間にあり小町か宅小野庄に百夜かよひ
し道なりとそ秀吉公のとき伏見の城へ訴訟あるもの此道を通り行は願
ひ事叶はずといひ傳ふ

◎藤森神社は墨染の北にありて府社なり本殿の中央は舍人親王ひかしは

早良親王西は伊豫親王を祭る又本朝武功の神を配祀し奉る神武天皇神
 功皇后日本武尊武内宿禰等なり故に弓兵政所と號す
 舍人親王と天武天皇の皇子にして天平寶字三年に追尊ある崇道盡敬皇
 帝と號す養老年中に勅をうけて日本記を撰し給へり例祭は五月五日に
 して産子は武具を着して走馬する事は光仁帝の御宇天應元年に蒙古日
 本へ攻來るよし聞へければ天皇第二の皇子早良親王を大將軍として退
 治あるべきよし宣旨を賜る親王當社に祈誓して五月五日に出陣し給ふ
 神威いちぢるく忽暴風大に吹來り蒙古の軍船浪にたよひ悉亡びう
 せけり此吉例によりて毎歲軍陣の行粧をなし天下平安の禱とし給ふ當
 社を弓兵政所といふは此所謂によるともいふ
 旗塚と本社のみかしにあり神功皇后三韓退治の後旗をこゝに埋め給ふ
 となり

蒙古塚は當社森の中に七ツありとそ今詳ならず夷賊退治の後軍將の首
 をこゝに埋て神威を現し給ふなり
 ◎鶉の床は深草野の叢に巢をくむをいふ也此野に鶉の床といふ所一所
 ありむかしより鶉の名所にして聲は他境に勝れたりとて都下の詞客中
 秋の頃こゝに來りて美聲を聞くとかや
 ◎安樂行院は深草野にあり京都般舟院に屬す本尊と不動尊歡喜天の二尊
 を安置す堂前にと後陽成院の御廟あり
 ◎眞守院は安樂行院のみかしにあり淨土宗にして深洲流義の本山なり本
 尊は阿彌陀如來にして開基は圓空上人也
 ◎瑞光寺は深草村にあり佛殿の本尊は釋迦佛長二尺胎中に五臟六腑あり
 明曆元年に元政上人草創ありて法華道場とし給ふ當寺境内の字を藥師
 堂畑といふ古へ極樂寺の藥師堂の遺跡なり

◎昭宣公の墳は瑞光寺の門前にあり大塚にして巡十間餘也上に小社あり三十番神を祭る

◎深草山寶塔寺は瑞光寺の北なり法華宗にして本堂には釋迦多寶の二尊高祖日蓮上人の像を安置す廟塔には日像上人のかゝれし題目の石塔婆ありて此下に之日蓮日朗の遺骨を收むこれを寶塔と稱す日像の説法石は釋迦千跡堂の内にあり鎮守の社には三十番神を祭る七面明神社は本堂の後山にあり是經宗擁護の神也鳥居の額は元政上人の筆也當寺は舊極樂寺にして眞言律を兼たり延慶年中に住職良桂律師日像上人の教法に従ふて法華道場と改む

◎百丈山石峯禪寺は寺塔寺の北に隣る開山は黃檗の六世千呆和尚也退院の後此地に住職す佛殿は釋迦佛額は濟世法王又左右に聯あり共に千呆の筆也表門の額は即非の筆にして高着眼と書す藥師堂は佛殿の前にあ

り此本尊藥師佛長四寸惠心僧都の作にて多田滿仲公の念持佛也村上帝御宇天德二年に攝州多田郷にねゐて滿仲公伽藍造營ありて沙羅連山石峯寺と號し此本尊を安置す其後文永の頃兵火のために諸堂回祿に及ぶ時此尊像を石函に收め山中に埋む夫より霜星累りて慶長元年の春沙羅山に夜々光あり郷人これを怪み其光の本を穿しかば一ツの石函を得たり蓋に沙羅連山石峯寺藥師佛の銘あり則一字を營て安置す同八年に菴主宗玄といふものに靈告あり都近き所に寺を遷し安置せば普人民を化益せんと宣ふ宗玄佛意に任て自脊に負ふて都に登り五條困幡堂に安奉し程なく五條の橋東若宮八幡の邊に堂舎をひらきて石峯寺と号す寶永の頃黃檗千呆和尚常に此寺に詣で藥師堂に尊信ありて曰我異國より日本へ渡り黃檗山の祖席に司職する事偏に靈佛の應現なりとて厚く瞻禮恭敬せられければ忽公命ありて今の如く百丈山をひらき此尊像をう

つし石峯寺とそ號しける

(210)

◎即成就院は深草のひかし大龜谷にあり本尊は阿彌陀佛の坐像也脇壇に二十五菩薩ともに惠心の作也此靈像は惠心僧都叡嶽横川にゐるて説法せし時覺人の老翁來りわれ之都の南伏見里に住むの也一つ齋を捧ん事を乞ふ惠心其詞に應じて伏見に至る指月のほとりの伽藍よりかの翁立いて佛間に請し極樂淨土の寶味なりとて捧しかば僧都奇異の思ひをなし老翁は何人ぞと問ふ答て我は佛在世にありし唯摩居士の化現也師の法徳を感じてこゝに來り惠心座を下りて拜し冀は正眞の如來を拜せん事を願ふ翁則西の空に向ふて敬禮しければ忽然として紫雲たなひき音樂と共に本主阿彌陀佛二十五菩薩空中に現れ給ふ漸あつて老翁諸とも西の天に飛去る僧都感信の餘り則來迎の相を自刻で當寺の本尊とす又壽永の頃奈須與一宗高平家追討のため出陣の時當院に詣で祈誓して

日今度戰場にねゐて譽を得さしめ給へ當院を再建すべしと則佛前の幡を取て竿印とし四海に下り壇の浦にて扇の的を射て名譽を天下に露す是本尊の擁護なりとて堂舎を修造し願望成就の奇特を世に知らしめんとて即成就院とぞなづけける

◎天王山佛國寺は伏見城山のひかしにあり開基は黄檗山五世高泉和尚なり佛殿の本尊には釋迦佛を安置す額普光明殿は高泉の筆なり柱にかくる聯に曰く四山帆松吞吐九天日月二千重寶構繞三圍萬里山河と共高泉の筆也禪堂の額選佛場と即非の筆也食堂の額五觀堂は高泉の筆開山堂の額無盡燈は一乘院信敬法親土の筆堂内には高泉和尚の像を安置す大悲閣には觀音を安置して額高泉の筆也南の門額天王山は木庵の筆柱に聯を掲る高泉の筆也高泉碑銘は紫銅を以てこれを鑄臺座は龜の形にして共に紫銅なり正徳元年九月廿六日攝政太政大臣從一位家照公

(241)

これを記す金涌水は右のかた松の下にあり早といへども竭る事なし水
軽くして茶の湯に可なり

◎伏見は京都を距ること三里にして京都に亞ぐの繁華なりいにしへは隴
々たる野徑にしてところ／＼に民村ありしが秀吉公在城より大名屋鋪
諸職工人買人軒端をつらね町小路に市をなし都へ貨物を通して交易を
なし今の如く盛大となるに至れり此所に紀伊郡役所あり

◎伏見の城跡は城山にあり文祿三年秀吉公伏見城を築給ふ其後慶長五年
石田が逆亂に滅ぶ桃山は伏見町の東にあり桃花を數千株を植て春と天
々たる艶陽の質をなし遠近此山に樂りて春色に酩酊し桃花の色を奪ふ
これを伏見の桃見といふ又梅溪あり梅花多し早春の頃花魁の清香を賞
美す

◎御香宮は城山の西にあり府社なり本社には神功皇后を祭る此地に御鎮

坐のこじめと年歴詳ならず文祿年中伏見城をいとなみ給ふ時此やし
ろを大龜谷の東にうつしけるに神崇ましくければ又此舊地に遷坐あ
りし也其地を古御香宮といふ當社の御旅所とす九所堂初は九坐の神を
祭る神興も九基あり御香水鳥井の傍にあり此水によりて名とす養石鳥
居の内敷石の間にあり詣人こゝより養をする所なり拜殿南の門は伏
見の城中にありしをこゝにうつす彫物等花美なり

◎京都疏水運河の水此地に來りて淀川に入る又インクラインを設けて舟
を上下す運送の便大に開けたり

◎京橋のほとりは大坂よりの舟着にて夜の舟晝の舟川蒸氣船小廻船ある
は都に通ふ高瀬舟宇治川くだる柴舟かすゞこそりてかまびすく川邊
の家にと旅客をとりめ驚惚なる聲を出して響應けるも此所の風儀なる
べし

●巨椋の池は豊後橋の南向島より渺々たる水田なり土人小倉の池といふ中に大和街道ありて東西三十四町南北二十四町の堤なり夏は蓮花河骨生じて炎暑を避るの江なり冬は水鳥おほく集りければ漁獵をなす巨椋のやしろは入江の南小倉里の東にあり春日明神を祭る此里の氏神なり祭は九月十日とす

●指月山月橋院と豊後橋北爪の東にあり毘沙門天を安置す弘法大師の作此地は洛陽殿舟院の舊跡なり観音堂月橋院の西丘の上により聖観音を安置す月見池は観音堂のまへにあり月見岡指月の後山にあり一名宇治見山といふ秀吉公此所に樓臺を營て月を賞し給ふされば姑蘇城の宴たけなはなりしも鵬鵠飛んでむかしを怨み銅雀臺に舞かなでしも雨しけうして今淋し此地も月のみむなく照してむかしに變らず

●豊後橋は指月の西にあり東の橋詰に大々豊後守の邸ありしより名とす

近年は觀月橋とのみ稱へて本名をいとす觀月には第一等の地なり

●六地藏指月の東八町ばかりにあり此所のひがしは醍醐街道西は伏見淀道中に京街道あり南は黄檗治宇に至る地藏堂は大善寺と号す淨土宗也本尊地藏菩薩は仁壽二年小野篁冥土に趣き生身の地藏尊を拜し蘇て後一木を以て六躰の地藏尊をさざみ當寺に安置す保元年中に平清盛西光法師に命じて都の入口毎に六角の堂をいとなみ此尊像を配して安置す今の地藏巡りこれよりはじまる

●天智天皇陵は宇治郡の北部にして山科村字御陵にあり世にいふ十陵の第一なり天智天皇御馬に召れて山科の里を狩し給ひ忽然として登天ありし所なり御沓の落止る所に陵をぞ建けり則御沓石とて陵の南にあり天皇の御沓此石のうへに落しとぞ

●吉祥山安祥寺は御廟の東にあり眞言宗にして紀州高野山寶性院の兼帯

所なり俗に呼んで高野堂といふ本尊は十一面觀音なり傍に地藏堂あり
惠運僧都入唐の時傳來し給ふ地藏尊なり當寺は染殿皇妃の御願にして
貞觀元年の建立なり初メの地は如意山壇の谷にあり慶長年中今の地に
うつす

④ 奴茶屋は大津街道にありこの屋の先祖は射術に達せしが旅人の盜難に
かゝるを憂ひて弓矢を以て守護せしよりこの名ありと其弓矢は今に店
先きに列ねたり

⑤ 大石良雄の舊宅は西野山の岩屋寺の下にありしを奴茶屋の筋向ふに移
せりこれはその持主の變遷せし故なり

⑥ 山科毘沙門堂は天台宗にして御寺務は法親王なり本尊は毘沙門天の立
像にして開基は傳教大師なり

⑦ 諸羽明神の社は天兒屋根命天太玉命の二坐を鎮奉る此地より東を四の

宮河原といふむかし延喜第四の宮住給ひしゆへその名あり又今の小關
越より流るゝ小川古は廣大にして一面の河原也往還の土橋是也下流に
では横川といふ

⑧ 廻地藏は諸羽の東にあり小野篁の作にして七道の辻の其一ツなり平清
盛の命ありて西光法師の建立なり

⑨ 追分は京師伏見大津の驛路なり道分の石に柳之緑花は紅の文字を刻む

⑩ 音羽山又牛尾山ともいふ追分より東南の山なり音羽里小山村は道のは
どりにありて一流の山川あり是を音羽川といふ水上は山科音羽瀧にし
て古より和歌多し此流れ右に見左に傍ふて牛尾觀音堂に登る道に安履
石あり行毅居士の沓此石上にありしといふ弘法脇掛石鮎良瀧調子瀧音
羽瀧は路の右にあり仙人窟五丈巖は左の岨を登ること三四丁にあり蛇
が淵は險路の左にありて經石は其右にあり

◎牛尾山法嚴寺は七回の上（七回）にあり真言宗にして本尊は十一面觀音也天智天皇の御作脇士は不動毘沙門天又行叙居士延鎮法師の像を安置す天智帝の社神明社あり不動瀧天狗杉は鐘樓の傍（傍）にあり黒泥盛金生水は堂前にあり智證大師此両品を以て紺紙金泥の曼陀羅（曼陀羅）を書寫し給ふとぞ當寺はひかし延鎮沙門音羽川の水（水）上を尋て行叙居士の沓（沓）を拾ひ大悲の化現なる事を智せる靈場也故に清水寺奥院と稱しける

◎山科本願寺の舊地は花山の巽（巽）にあり第八代蓮如上人交明年中の建立也實如證如三代住職し給ひて宗風繁茂して堂舍滔々たり遂に佐々木定頼か爲に回録（回録）に及ふ今山科御坊と稱して東西本願寺の懸所二ヶ寺有毎年三月二十五日蓮如上人の正忌有蓮如上人の塚は舊地の西にあり實如上人の塚は東の野村東二町に有

◎花山は瀋谷峠（瀋谷峠）の東にあり元敬寺とひかし僧正遍照住給ひて天台宗なり

本尊は藥師如來則遍照の作也人皇六十五代の帝此寺に入給ひて祝髮し給ふこれを花山院とぞ申奉る

◎苦集滅道といふは今の瀋谷越といふ小町寺玉章地藏尊は色ごのみのますらを小野小町に心を通はす艶書をあつめ妄執の戀慕消滅の爲に此像を作り腹内に藏むと

◎大龜谷は藤の森より勸修寺を経て山科追分（追分）に出る街道也いにしへ此所に茶店ありて容顏艶しき女あり名をお龜と稱す自然と所の名に呼で大龜谷といひし也

◎花山稻荷は南花山にあり世人大石稻荷と稱せり

◎吉利俱八幡宮と勸修寺村の産沙神也祭は九月二十一日也當社の神木に種字杉といふあり今板となして社頭（社頭）にあり表に阿彌陀の梵字（梵字）あらはる

◎勸修寺は大龜谷の良勸修寺村にあり當寺の宗旨は華嚴に真言を兼たり

本尊は延喜帝御等身の觀世音也長五尺三寸開基は範俊僧正延喜四年の建立にして本願は右大臣定方なり東大寺の寺務にして勸修寺御門跡と稱す氷室池は當寺の庭中にあり

◎岩屋寺は西野山にあり本尊不動佛は智證の作にして大石良雄の念持佛なり又印度より傳來の十一面觀音あり大石内藏介良雄淺野家斷絶の後こゝに潜居す良雄の遺物等あり又四十七義士の木像あり

◎田村磨墓は栗栖野にあり明治廿八年修造して美麓の靈地となれり弘仁二年五月廿三日薨す年五十四

◎大宅寺は勸修寺の北大宅村の南にあり古此所は大職冠鎌足公の居館なり今は曹洞宗月坡和尚一字を建て大宅寺と號す此里を大宅となつくる事は開院大臣冬嗣公の御孫高藤殿秋のすへ小鷹狩に出けるに風雨頓にして雷なりければ供人もちりくになり此君は漸馬飼一人供し

である門の内に入給ひぬなをも雨風まさり雷恐しければ今宵は此屋に宿り十三四なる女に契りをこめ佩給へる太刀一腰殘しをさ給ひぬ其後六年をへて戀しく思ひ此屋をたづね給ひければ六ッはかりをんなの子のいつくしさが立出て膝に居けり此兒は誰そとどひ給へば一とせ立入らせ給ふ跡にてたゞならぬ身になりて産侍る此家の主は此郡の大領宮道彌益と聞てこれも前の世の契あらめと思召御所につれて歸り西の對にをさ給ふ打つゝされのこ子二人誕生あり高藤殿はやんことなき人あれば大納言になり給ひ男二人は泉の大將其弟之三條右大臣此姫君は宇多天皇位におはしますに女御にまいらせいくはくもなく醍醐の御門をさうみ奉りぬ彌益之四位にありて家は今の勸修寺なりむばの家には塔を建て大宅寺といふと

◎小野随心院は勸修寺の東也曼荼羅寺と號す眞言宗にして開基は仁海僧

正也法務は小野御門跡と稱す攝家の御連枝住職し給ふ開基仁海と小野僧正といふ寛仁二年六月大に早す此僧正に勅して神泉苑において請雨經の法を修せしむ時に大雨降事三日三夜其後九度詔ありて皆雨をふらす世人雨僧正と呼ぶ永承元年五月十六日寂年九十二

小町水は門内南の藪の中にあり此所は出羽郡司小野良實か宅地にして女小野小町つねに此水を愛して艶顔を粧ひしとぞ

栢の樹は厨の前にあり深草少將此地に百夜かよひ植置しなりとぞ
深草少將の通ひ路は醍醐往還の西側藪の中にあり墨染の南欣淨寺の地

より小町か宅へ百夜のかよひ路なり竹林といへともらにし入より竹一株も生せずといふ

櫻塚は小野村の西にあり小野小町が文塚とも一説には後小野宮道の墓と云ふ

深雪山醍醐寺は小野南なり山上を上醍醐といひ麓を下醍醐と號す宗旨は眞言宗にして修驗道也此所を當山と号す本山といふと聖護院の流義なり開基は聖賢尊師理原大師と證す延喜四年の建立にして醍醐朱雀村上の三代帝王の御願なり法務と三寶院御門跡と稱す攝家の御連枝これに任せらる當山を醍醐と號する事は聖賢尊師佛法相應の靈地を得んが爲一七箇日祈念しければ五色の雲當山の峰に聳ゆ則山に昇りこゝかしこを巡るに獨の老翁來りて清泉を褒是こそ醍醐味なりといひて尊師にあたへ夫此山は古佛練行の洞諸天衛護の砌佛の遊處名神の所居也われ是地主の神横尾明神也永此地を尊師に獻べし早く精舎を營て廣く佛法を弘群類を利し給はば擁護せんと云終て見へす又梢の鳥は三寶を唱ふ尊師彌感涙を流し此由を上奏す延喜帝殊に愍感ありて除病延命のために當山の諸堂を造營し給ふ本堂は藥師如來を安置す回祿の後秀

吉公の建立なり開山堂は弘法大師埋源大師の像を安置す五重塔は佛言
説相の曼荼羅を本尊とす清瀧権現は沙迦羅龍土第三の姫を祭る例祭は
九月九日山門の前にて猿樂あり藤戸石は三寶院の庭中にあり備前國藤
戸浦にて佐々木三郎盛綱高名せし浮洲の岩也天正年中聚樂亭より此所
に移す長尾天満宮は本堂の北也祭は九月九日にして神興二基のり醍醐
村中の産沙神とす花見山は秀吉公花見遊宴の地也

◎上醍醐は麓より山上まで三十七町にして一町毎に標石あり石面に梵字
をさざむ權僧正成賢の筆なり山腹瀧か樋不動堂より女人の登山を制禁
す清瀧社は龍神影向石社壇の内にあり五大堂は不動明王は開山聖賢
の作四尊は理會僧都の作なり延喜帝の御願にして朝敵平將門降伏のた
めつくり給ふ本尊なり

◎如意輪堂は本尊如意輪觀世音を安置す聖賢の作なり西國願禮所にして

第十一番なり

◎藥師堂の本尊藥師佛は惠理僧都の作なり堂内に准胝觀音を安置す觀音
堂回祿の後こゝにうつす

◎祖師堂は中央聖賢尊師南之弘法大師北は觀賢僧正也又尊師大峯にねる
て惡蛇を退治し給ふ三尺の劔則聖賢の作なり惡蛇の鱗二品とも堂内に
あり

◎寂靜谷祖師堂の北にあり毎歲七月五日六日當山の千日詣とて群參し此
所までもゆくなりつねは人跡稀なり

◎醍醐天皇陵は三寶院の北人家の東にあり人皇六十代の帝御諱は敦仁
宇多帝第一の皇子在位三十三年延長八年九月廿一日崩じ給ふ

(255)
◎朱雀天皇陵は同所陵町にあり醍醐帝の皇子にして六十一代の主とな
り在位十六年天曆六年八月十五日崩じ給ふ

◎一言寺は醍醐村の南にあり眞言宗にして醍醐寺に属す本尊は千手觀音にして安阿彌の作なり内侍堂には當寺の本願阿波内侍の像を安置す少納言信西の女なり

◎直谷南禪院は醍醐山の巽にあり成賢僧正隱道の地なり本尊は阿彌陀佛の坐像にして春日の作なり側に地藏尊を安置す此里の農夫常に尊信しければ一夜の間に多くの田を植置しとぞ世人田植の地藏と號す

◎笠取山は醍醐のひかしなり民村多し巽の峰に山城近江の國堺あり岩間寺は國堺より三町ばかり東にあり石山寺は是より一里東也

◎日野薬師は一言寺の南日野村にあり法界寺と號す本尊薬師如來は金銅の坐像也日天月天十二神二王等運慶の作にして左右に安置す世人乳出の祈願を籠るに靈驗いちじるし舊阿彌陀堂にして後壇には丈六の彌陀の像を安置す定期の作也初は日野左中辨資業卿の本願にして諸堂觀々

たり觀音堂五大堂大門の蹟今田畑の字となりて當寺のまへにあり日野村には則日野家別荘の舊跡あり

◎重衡の塚日野村茶園の中に入り三位中將重衡卿木津川にねゐて誅せらる重衡卿の北の方大納言佐局此日野におはせしが骸を東大寺の聖俊乗坊より申うけてちかき法界寺にて畑となし骨を高野へ送り墓を此所に築しなり

◎長明方丈石は日野村のひがし五町許外山の山腹にあり石床三間四面高二丈許一説に名を千人石といふ左は笠取炭山の往還なり此地甚だ絶景にして遠近の佳境一眼の中に遮る

◎小栗栖里は石田の西にあり此所より木幡山を越て伏見城山に出る道ありこれを明智越といふ天正十一年明智光秀山崎の合戦に敗し江州坂本の城におもむくとき此道を通る小栗栖の土民出て竹の鎗を以て害す此

ゆへに名とせり

(253)

◎無量山西方寺の木幡村にあり淨土宗なる本尊阿彌陀佛は金銅の立像也
 其來由を原に當國淀の東一口といふ所に惡次郎といふ漁人あり産業の
 殺生をつねにして邪見放逸のもの也ある時頭陀の僧一人門戸に立惡次
 郎焼鉄をかかぬ僧の額に當て追放す僧少も怒色なふして歸ける次郎怪て
 跡を慕ふに西山粟生野光明寺に入て見へず堂内の釋迦の像を拜するに
 額に焼鉄の火印あり次郎忽懺悔の心を發して佛道に入是より御鉢の釋
 迦といふ今光明寺にありある夜靈夢を蒙りて淀川に網を入るに紫金の
 佛像を得たり當寺の本尊是なり其後當寺の常照阿闍梨と共に佛道修行
 し遂に二人とも同日同刻に往生し侍りぬ世人惡次郎を名て彌陀次郎と
 云ふ

一黄檗山萬福寺は五箇庄の南にあり禪宗黃檗派の本堂なり開山隱元和尚

は明の福州福清の人にして姓は林氏諱は隆琦字は隱元なり承應三年に
 東渡し萬治二年公命によつて山城國宇治郡大和田の勝地を賜り寛文元
 年九月より伽藍を草創し精舎の經營多くは異風を摸し名て黃檗といふ
 同十三年四月二日後水尾上皇より大光普照國師の號を賜ふ漢門、山門、
 天王殿、大雄寶殿、法堂、威德殿、祖師堂、伽藍堂、舍利堂等あり皆明國の
 風を摸擬せり

◎明星山三室戸寺は黃檗の南大鳳寺のひがしにあり本尊千手觀音は圓淨
 鍍金の立像にして長八寸二分也宇治山の東岩淵の水底より出現す西國
 十番の札所也光仁天皇の御本願にして智證大師の開基也中興は隆明法
 師といふ

(254)

◎宇治山は三室戸山の南也喜撰法師此所に住ひしとなん
 ◎喜撰嶽は三室戸より一里ばかり巽にして檀川村の山上にありこゝに岩

廻りてこれを喜撰洞といふ此絶頂より喜撰法師雲に乗して登天し給ふとぞ

◎宇治のひは荒道ともかけり京都より行程四里にして宇治橋の東は宇治郡西は久世郡也むかし應神天皇第五の親王菟道稚郎子に帝位をゆづり給ふをかたく辭してこゝに閑居し給ひ宇治宮と号し兄大鷦鷯皇子に譲り給ふ是も又父帝の勅なきを位に即べきやうなしと互に辭し給ひ天子なき事とせが間なり遂に宇治宮みつから薨し給ふによつて兄の親子即位し給ふこれを仁徳天皇と申す也又皇極天皇は大和國飛鳥宮より近江の比良宮に行幸なるとて宇治里に一夜泊らせ給ひ尾花をかりて菴をつくらせ行宮となさしめこれを宇治都といひ傳ける
宇治の名産は水魚鱈鮓圓枳茶麴風爐の炭等なり茶は本朝の極品にして天下に名高くむかし梅尾の明惠上人種を興國より取て脊振山に栽置

てこれを岩上茶とそ名つけたり夫より宇治の風土茶園に可なりとてこれに栽初しなり

◎鯖石は三室戸より宇治橋に至る道にあり石面二方に観音の像を彫り椎が本の社は彼方の町に鎮坐し四河屋の観音は此左にあり浮舟宮は宇治の北波戸といふ所にありて橋姫夢のうさはしは川の西なり

◎宇治川の水源は琵琶湖にしてつねに滔々とながれ石山黒津を経て山とめぐり巖に觸れて宇治に落淀川に入る

◎橋小島崎は宇治橋の川下二町にありし也平家物語に日へる佐々木高綱が梶原景季を賺して先登せし處とかや山吹の瀬は融大臣が山吹を多く川の岸に栽へしより名づけたるなり

(291) ◎宇治橋は孝徳天皇の御宇大化二年に元興寺の道昭和尙此橋をかけ初し也

◎橋寺は宇治橋の北にあり常光寺放生院と号す本尊は地藏菩薩一基之道昭和尚也其後興聖菩薩二にて橋供養せしなり

◎離宮八幡宮は橋寺の南にあり祭る神三坐にして上の社は應神天皇仁徳天皇下の社は兎道の尊を崇奉る是平等院の鎮守也宇治灘の産沙神とす神興三基例祭は五月八日なり

神社は當社の北にあり離宮の攝社なり離宮と号することは此地に宇治宮ありしゆへ自然の稱号也

◎朝日山は離宮の後山をいふ兎道尊陵朝日觀音此山腹にあり

◎朝日山惠心院は離宮の南にあり真言宗にして開基は惠心僧都也本尊大日如來は弘法大師の作藥師堂の尊像也同作又惠心僧都七十六才の像堂内に安置す本堂の額惠心院は持明院基時卿の筆也開基源信僧都は和州葛木郡の人にして姓は清原氏也叙山慈惠法師につかへ顯密の教をよく

きはめ一乘要訣往生要集阿彌陀經疏大乘對俱舍抄因明相違など著し惠心院の僧都となり唐の南湖知禮法師に問書をつかはしければ大に感歎し答釋つくりて返しける寛仁元年六月十日終をとげにける壽七十六時に天樂空にひびき奇香よもに散じ山中の艸木ことごとく西になひさしとなり

◎佛徳山興聖禪寺は惠心院の南に隣る曹洞宗にして開基は道元和尚也佛殿に之釋迦佛を安置す額興聖寶林禪寺は青蓮院尊純法親王の筆也當寺とはじめ深草里にあり今墨染の南欣淨寺の境内此寺の舊地也正保年中万安和尚中興して諸堂は淀城主永井直政の建立なり川岸より門前までを琴坂といひ左右に櫻紅葉をうへて山吹を透垣とし朝日山を庭中にとり白旗を繞ては龍虎をつくり姫躑躅咲見たれては宇治の川瀬の鐘火と疑とる

⑤ 榎島は宇治橋より乾八町ばかりにあり宇治橋より豊後橋まで凡五十町の堤なり名を榎堤といふ此間に榎島目川上島下島等の村民あり又上島より黄驥への舟わたしありこれを隠元のわたしといふ

⑥ 橋姫のやしろは宇治橋の西つめにありはじめは二社なり一社は洪水のとき漂流す今礎存せり此祭神のことにつきてはさまざまの説ありともいづれとも定めがたし今たしかむるの要もなければ疑をかきぬ

⑦ 浮舟島之橋より二町ばかり川上也弘安九年興聖菩薩橋供養のとき高さ五十丈十三重の石塔婆を建る近年洪水に漂流す

鵜飼瀬は浮舟島より半町とかり南をいふ

⑧ 榎尾山と橋より南にして北に向ふたる山也土人丸山といふ

⑨ 鳳凰山平等院と宇治橋の南にあり初は河原左大臣融公の別荘なりしが其後陽成院此地に行宮を建られ宇治院と號し又朱雀帝も此所にて遊獵

し給ひけりそれより六條左大臣雅信公の所領となりしが長徳四年十月御堂關曰此院を得て山莊とし遊覽の地とす其後子息宇治關白頼通公永承七年に寺となして平等院と號し法華三昧を修せしむ佛殿は鳳凰を象り左右の高樓回廊を兩翼とし後背の廊を尾とす棟の上に雌雄の鳳凰のり金銅を以て造る風に隨ふて舞故に鳳凰堂といふ本尊阿彌陀佛は長六尺の坐像にして定朝の作也堂内の長押に廿六菩薩の像あり四同壁并に三方の唐戸に淨土九品の相を畫く繪師の長者爲成の筆上には色紙形ありて觀經の文を書す中納言俊房の筆なり天蓋路瓊等は七寶を鏤古代の作物にして美麗莊嚴他にならびなし鳳凰堂は永承年中頼通公建立より曾て回祿の災なし南方の奇觀とす釣殿觀音堂は最勝院と号す本尊十一面觀音は立像にして春日の作なり地藏尊不動明王を左右にして脇壇に安置す扇芝は源三位頼政治承四年五月廿六日此所において自

殺す駒磨松は頼政馬をつなぎし所なり鑑懸松は頼政鎧をぬきすてし所なり

◎阿字池は鳳凰堂のめぐりにある池也惠心僧都の作といふ

◎鐘樓の鐘は龍宮より上りしといふ園城寺の模形にして日本三鐘の其一なり

◎阿彌陀水鐘樓の下壇の池なり傍に六字の名号の石塔を建つ

◎樓門の跡は今のかり橋の北にあり焼失の後形を遺す當院は天台浄土の

二流ありて台家は三井寺に属し寺務は圓満院門主也浄家は宇治關白の菩提所して心譽上人より世々浄土宗を以て當院を守る方丈に頼政の鎧

兜及び畫像あり

◎宇治別業は宇治關白頼通公の第宅は平等院のうしろ西の方方四町はかりなり今所の字となりて池殿岩橋御園御倉町公文所等の名を呼ぶ

◎照神社は平等院の後西門の跡の傍にあり祭神弓削道鏡の靈なりと一説に之宇治の悪左府を祭ともいふ例祭は五月五日夜神興一基あり

◎金色院白山権現は白川村にあり平等院より十八町南なり開基と昭澄上人此里の産沙神とす祭之九月十八日也

◎宇治田原は平等院より凡五十町南にして左は宇治川右は山嶽巍々たり岨路險しくこれを栗子山越といふ近年岨をひらき岸には石を積て道を廣くし險難を穿て平にす故に往來の人繁し

◎田原親王の御廟は大宮の南にあり光仁帝の御父にして施基皇子と號す猿丸太夫が舊跡は田原郷禪定寺村のひがし奥山田にあり幽棲なり此ひ

がしに山城近江の國堺ありて江州戸塚村へ出る也これを猿丸峠といふ煎栗焼栗林は田原郷名村にありひがし淨見原天皇は世榮を避て吉野山

に閑居し給ふ時大友皇子疑心を狹て襲給ふ天皇こゝかしことさまよ

ひ此所にいたり給ふ里人高槻に栗をやさ又煎などして上げり天皇これを見給ひて我思ふ事叶ふべきは生出て茂るべしとて片山に埋給ふ里人不思議に思ひ印を立をく遂に大友王子は山崎の合戦に敗し自害し給へりこれによつて吉野王子位に即これと天武天皇と稱す此栗樹次第に繁茂し凡方四町の栗林となりこれを御栗極といふ焼さるが如く煎たるが如くの栗今に生して當國七不思議の其一也

◎八幡宮は栗林の東にあり田原郷中一の宮と號す此邊の氏神にして祭は九月廿六日なり

◎天武天皇社は八幡宮のひがしにあり

◎信西塚は大道寺村道の傍にあり此所より鷲峯山に至るなり少納言信西入道は右衛門督信賴が爲に敗北し我領地此里に來つて土中を穿ち自埋まり亡ひ給ふ所を敵勢追かけ來り忽堀出し首を斬り都へ上りし也といふ

◎大道寺舊跡は大道寺村にあり今草堂として觀音を安置す此所鷲峯山の麓なり

◎鷲峯山金胎寺は和束郷内原山村の巔にあり宇治田原郷口より一里半大道寺村より卅六町なり一町毎に標石あり天武天皇の御宇白鳳四年九月に役優婆塞此山に來り天竺の靈鷲山をうつし八ツの嶺は八葉の蓮華に表し釋迦嶽阿彌陀嶽彌勒嶽寶生嶽阿宿嶽虛空藏嶽不空嶽妓樂嶽と號し巖頭に坐して修法する事五七日なり是當山の開基とす其後元正帝の御宇養老六年に越の白山の行者泰澄法師役芳跡を慕ふて登山し七堂伽藍を造營す後世に及んで荒廢今は僅にその跡を存せるのみ

此山は山城の高山にして北の方之比叡愛宕の嶺高く聳右の方には琵琶湖の漫々たる水面雲に連り三上鏡の翠巒は旭に鮮なり左のかたむ志

實生駒金剛山蒼天には西海の海原兵庫の洲崎淡路島山見れゐるひは摩耶六甲山の高根も只此嶺より一眼の中に遮りて雙眸の客となりぬ衆山に秀て巖頭嶮々として樵夫も路を歩しかね老杉繁茂し白日を埋んで開し

◎百丈山大智寺は和東郷湯舟の奥小杉村にあり鷲峰山のひがし也郷口より山田を越て湯舟に至れば四里餘也原山よりはひがし一里に有禪宗にして江州山上永源寺に屬す開山大觀禪師諱は理有字は大有奥州金家の子なり出生してより不言こと六載にして始て語ッて曰われは是良辨也父母大に怪み遂に出家となす夫より諸の知識に謁して經論を曉し壯年の時近州甲賀に住し常に和州安倍文珠を尊信し參詣の志願を企此湯舟村を過るとき柚木の聲若か家に入て茶を喫して憩ふある日の當山に山水の佳境ありと告る師則陌實一斗を携てかの山に登り巖上に坐禪

する事一千日なりある時側の巖二ツにさけて文殊菩薩出現し空中に在す事暫にして去師大に歡喜して岩頭を下り殘樵を道に蒔頓て芽を生る事數千本にして林となる今小杉村の榎木原これ也其後此所に一字を建立して文珠の像を安し百丈山大智寺と號す本願は山名伯耆守なり開山は明德二年十二月十六日化す四十歳勅諭を大觀禪師と賜ふ
佛殿の本尊釋迦佛は安阿彌の作なり方丈には交殊の像有又後水尾院の牌を安置す

坐禪石は方丈のひかし十町餘にあり高さ三十間横幅二十間頂上の平方十間はかりなり傍より此所に登る道あり大觀禪師一千日坐禪し給ふ所とぞ

◎椎尾山光明寺は長池の南觀音堂村に有本尊十一面觀世音行基大士の作也此寺を觀音堂と稱す故に村の名とす此寺はじめは此邊より宇治田原

に越る道のかたはらにあり其所を椎尾山といふ今はその跡のみ残り

●胃の社は觀音堂の南にして東の山本にあり祭る所は高倉宮の御胃也宇治の合戦に敗北し給ひ胃の落しを村人ひろひとりて家に納しに祟あり故に神殿を造り此所の産沙神とす祭之九月三日なり

●玉水里は長池の南一里余なり此所大和街道の驛にして人家多し秀吉公のとき此道をひらき給ひし也古の道は東にして井堤里を通りし也

玉水井は里の北道の傍にあり橋諸兄公の愛し給ふ玉水の井は井堤の里玉河の水也此井は里の名によりて後世に準へつくと見へたり

●玉井寺は井手里の中水無村にあり宗旨は眞言律にして本尊は聖觀音を安んず凡基は覺音阿闍梨なり庭中に玉井蛙塚あり

●井手里は玉水のひがし也井堤左大臣橋諸兄公の舊跡は此里の南に石垣村といふあり此所のひがし上村の山本にあり岩の松中島はむかしの

泉水の跡にして今は田の字となりぬ昔紅の藤ありて其殘苗今此地にあり又井手の蛙こゝに限りて色は少し黒さやうに見へ形はいと大きにもあらずよの常の蛙のやうに踊りありく事もあらず常に水に住て夜更るほどに鳴つれたるは心も清て物哀なる聲にてありける

●玉川一名井堤川ともいふ水上は井堤里の東二里ばかり和束といふ所より流れて井手の南を過玉水里を西へながれ木津川に落入也左大臣山吹を愛し給ひて玉川の汀に際なく植たり今其跡を御溝裏といふ花の輪は小土器の大さにて幾重ともなく重りて花の盛には黄金の堤などをつまかたしたるやうにて他所にはすくれたり

●高倉宮靈廟は玉水の南鳥居村の東にあり後日川院第二の皇子茂仁親王也京都三條高倉に御殿ありしゆへ高倉宮とぞ稱しける平家物語曰宮は三十騎ばかりて落させ給ふ所を光明山の鳥居の前にて追つき奉り雨の

ふるやうに射奉りければ何れが矢とは知ねとも矢一ツ来て宮の左の御側腹こはらに立ければ御馬より落させ給ひて薨去せらるると

◎普門山蟹満寺は綺田村あやたにあり真言宗にして本尊は釋迦佛を安す紫鏡むらさきかみの坐像長八尺也當寺傳記に蟹女を救ひしことあれどくどくとしければ之を略しぬ

◎梶原社綺田の南にあり祭る所梶原平三景時か靈なり一説には延喜式の綺原の社はなりとを祭る所健伊那大比賣神也此里の氏神とす祭は九月三日なり

◎北吉野神童寺又金剛藏院と號す綺田のひがし山中にあり真言宗にして本尊は藏王權現立像長八尺なり此山之昔和州吉野山に毒蛇出でて登山の人を惱なやす故に笠置山を大峯とし當山を吉野山に准じて參詣せし也

◎妙勝禪寺は木津川の西薪村たぎいにあり酬恩菴しうおんあんと号す禪宗にして開基は大應

國師正應年中に艸創くさくわうし又一休和尚康正の頃に再興またたかす佛殿の本尊は釋迦佛を安置す開山堂には大應國師の像を安置し方丈はうじやうには一休和尚の影えいを安す存生ぞんじやうの時自このみて作らしむ鬚髮しゆはつを生身を植うゑる也酬恩菴しうおんあんの額がくは方丈に掲かる一休の筆也一休の塔には遺骨ゆいこつを藏をまむ又常に携たづりし笠杖あり

◎綴喜ついでき都は普賢寺溪たにの巽たににあり方三町ばかりにして南北山なりむかし繼ついで體てい天皇の皇居を遷うつされし所とぞ今都谷といふ

◎段々良不動堂だんだんらふどうは都谷の山下にあり弘法大師の作也大御堂はたぐら村の西にあり本尊十一面觀音を安す寺号は普賢寺とていにしへは伽藍嚴重からんじやうじゆうなり

◎祝園いわのは稻八妻村の東南にあり神武天皇の御時逆臣長髓彦さかしくさひこを亡なし給ふ所なり土師はじは祝園の南にあり此里より大和歌姬うたひめへ一里半といふ

◎木津川一名泉川といふ水源は伊州山田郡阿知あちといふ所より出て伊賀半

國の水此川に流れ末は淀川に落る霖雨にわらず晴天の日にても東風つよく吹ときは満水して堤に溢る白沙常に流れて川の面は白布を敷たる如く也

◎木津里いにしへは泉里といふ聖武帝の御宇南都大佛殿建立の時國々より材木を運送し此里に着しより木津の名あり此所より奈良へ一里半也人家多し布を曝して産業とす

◎和泉式部墓は木津町の東にあり式部此里より出しと也

◎橋柱寺木津の内大路村の東にあり泉川の橋斷絶の後橋柱水底に残つて數百歳を経光を放つ慈心上人これをもつて佛像を刻安置す今大智寺と號す額は隱元の筆なり

◎哀堂大智寺の南也中將重衡此所において誅せられし所也傍に重衡か塔あり頸洗池はあはれ堂の良堤の下にあり重衡が頸をあらひし所なり

◎鹿背山之木津の東鹿背村にあり山上に城跡ありこれを木津の城といふ一の坂こ木津の南半里にあり是山城大和の國堺也念佛石その南にあり土人土講座といふ南都大佛殿再建のとき法然上人の導師にて堂供養ありしとき此所にて説法し念佛の功德をためし見給ふ石なり

◎狛里は上狛は木津川を隔て北十町はかりにあり下狛は此所より乾にして木津川の西なりむかし百濟高麗より惠辨惠宗といふ貳人の僧來りて此里に住せし也高麗の文字を狛にかへて所の名とせり一説には百濟の訓を一字につくり偏は才旁は百とし狛と呼しむるとぞ泉橋寺は此里の南にあり本尊地藏菩薩は惠心の作也門外に石地藏あり行基の作也太平紀に古津の石地藏といふは是なり高麗寺の舊蹟之上狛の東に有野中に礎遺れりむかし用明帝の勅にして唐僧惠辨住し寺なり

◎瓶原は狛里の東一里にありむかし瓶を埋置けりそれに河水流入てぬき

かへるやうに出る也とそ瓶原びんのはらは惣倉にして中に西村川原岡崎井平尾更村登大路佛生寺奥畑等の村のり今は多く分合せり國分寺は瓶原河原村にあり真言宗なり本尊は阿彌陀佛也聖武帝の御願にして開基は行基大士とそ日本國毎に一寺を建て國分寺と號す今は遺趾を存せり

◎海修山寺瓶原卿佛生寺村の山上にあり當寺は聖武天皇の勅願所にして中興は解脫げだつ上人也宗旨真言にして本尊は十一面觀音脇士は地藏毘沙門を安置す三重塔は招提寺の開祖鑑真和尚漢土より將來して聖武帝に獻りし佛舍利を本尊とす文珠堂の本尊は文珠菩薩なり役行者の像を安置す影向松は春日大明神此松に影向したまひ解脫げだつ上人に逢ひ給ふ所なり奥院の本尊十一面觀音之解脫げだつ上人の作なり左右に解脫上人の像慈心上人の像を安置す又南の壁に月形の窓あり此所より春日明神影向し解脫上人に謁し給ふとなり解脫上人塔慈心上人塔は本堂より一町ばかり西

にあり

◎恭仁の都の舊地は瓶原の西鹿背山しかせやまのはどりなり聖武帝御宇天平十二年十二月橘諸兄公此地を經回せしめ其後始て宮城を造り帝行幸し給ふ賀世山の西の道より東に左京とし西を右京とせしよし

◎流岡は瓶原の西加茂の渡のはどり也南都大佛殿建立の時伊賀が材木を組くみて泉川を流すに岩石河中にあつて通る事なし聖武帝宸襟しんざんを惱し給ふ所良辨僧都岩峯いはんぼうよりて千手の法を終し給へば忽岩石碎散くたれちりて道を開く故に多くの材木筏さいやくいに組くみて安々と流し其くたけたる巖なかれとまりて此所を流の岡といふ又一ツの岩河下に流て今飯岡といふ

◎鹿路山笠置寺は木津川の河上笠置の山上にあり麓に民家多し川を隔て兩村あり南笠置北笠置といふ
當山を笠置と號る事は往昔天武天皇此山に遊獵し給ふ時乘じ玉しゆんひし駿

馬殿に膝を屈して動す天皇危急にして三寶を禮し安泰を得さしめ給は
 此山に佛閣を造營すべしと祈誓し給ふ既に感應ありて乘馬速に進む
 故に其證として着御の蘭立をこゝに遺し還幸し給ふ遂に佛閣を建立わ
 りて笠置寺と號し給ひぬ麓より坂路八町あり宗旨は眞言にして新義也
 本堂には彌勒佛を本尊とす自然石に刻む護摩堂はこれを正月堂と號す
 いにしへは春三箇月の間天下安全の修法ありて二月堂三月堂あり當山
 回祿の後は南都東大寺に於て二月三月の修法あるなり彌勒石藥師石文
 珠石虚空藏石等あり皆石面に佛像を刻む千手 颯は良辨僧都こゝに籠
 り行法せし所なり笠置颯といふ楠書判石は楠止成石面に書判を居へを
 さしなり鐘樓は解脫上人冥土より閻浮檀金を取歸りこれを交て鑄立し
 かね也銘に曰笠置山般若臺建久七年丙辰八月十五日大和尚南無阿彌陀
 佛と

◎後醍醐帝の皇居は當山の巔にして本丸二の丸の跡は藥師石彌勒石の
 上の平地なり楠正成もこゝに來つて始て御味方をいたし陶山小見山が
 夜討せし所は此山の背にして北の方にあられり數百丈の巖石そひえて
 鳥も翔がたく古松枝を垂蒼苔露なめらか也麓には泉川を帶て白浪巖を
 碎く勢ありて水流の委曲驚蛇に似たり山別第一の勝地にして千巖を
 競ひ萬壑流を争ふたる山水の美といひつべし

◎栗栖天神宮笠置山の麓人家の西にあり祭る所は天滿天神也是笠置寺の
 守護神とす此所の氏神にして祭は九月二日也

明治三十六年二月十日印刷
明治三十六年二月十五日發行

版權
所有

大阪府東成郡清堀村番外七十二番邸寄留
的場麗水

發行者 吉田直次郎

大阪市東區北久寶寺町三丁目廿三番地

印刷者 松井惠美三郎

至誠堂印刷所

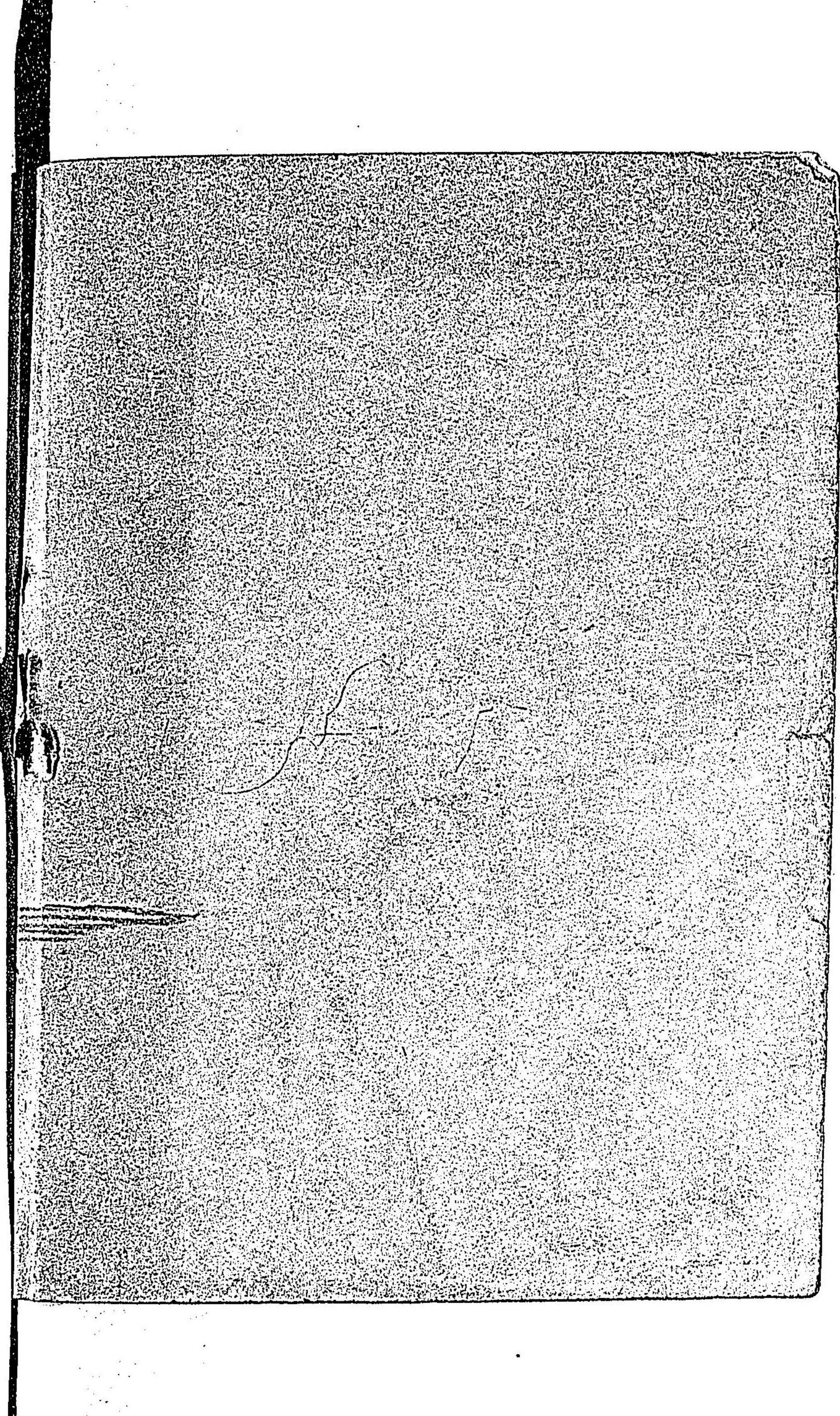
大阪市東區北久寶寺町心齋橋東入

吉田至誠堂

京都市寺町松原南入

田中種玉堂

發賣元
全



◎凡 例

一日本は世界の國にして京都は日本の美術園なり内外人
も如何に京都の幽邃なる風景に心神を娛ましむるかは
こゝに敢て喋々するの要もなかるべし明治三十六年は
第五回内國勸業大博覽會を隣地なる大阪に開かるれば
内外人も如何に京都の山水の美を喫せんとするや實に
はかるべがらず乃ち訪ひ來る四方の人々に名所舊蹟を
案内せんが爲め茲に此書を編せしなり

一本書は京都名所獨案内と題すれども唯だ京都市の内外



77W13877